

2025度 研究・事務組織 F群

群	区分	自己点検・評価対象部署	頁番号
F	研究組織	超伝導・持続可能エネルギー研究センター	2
		現代教育学研究所	5
		生産技術開発センター	9
		AI数理データサイエンスセンター	13
		環境保全教育研究センター	16
		天文台	19
	事務組織	教育技術部	22
		学習支援室	25
		学生相談室	28
		体育・文化センター事務課	32
		学生寮	35
		保健管理室	38
		睡眠相談室	41
		振興基金室	44
		広報課	47
		制作課	50
		渉外課	54
		工学部事務室	57
		現代教育学部事務室	61
		理工学部事務室	64
		教務支援課	67
		教職課程センター事務課	71
		学生支援課	75
		学生サポートセンター事務課	78
		キャリア支援課	81
		情報統括部	84
		学部・大学院統括課	87
研究支援課	91		

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	超伝導・持続可能エネルギー研究センター
人員構成	専任・嘱託 6 人、 オブザーバー 6 人

基準 11	大学独自の評価項目 (研究推進)
-------	------------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項	☐ ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1111	<ul style="list-style-type: none"> 各教員が各自テーマでの科研費・特別研究費を申請し、民間資金にも応募を拡大した。 石狩超電導・直流送電システム技術研究組合 (i-SPOT) に参画し、同技術組合が管理する石狩超電導直流送電実証施設での実験計画を立案・実施した。 外部機関との連携を積極的に行い、核融合研との共同研究、EU の日本とのエクステンジブプログラムである Horizon Europe の公募に対して、中部大学は NETSU プロジェクトの日本の応用研究の拠点の一つとして共同提案を行った。(2022 年応募は不採択) 教育活動については、学部生 8 名 (宇宙航空 6 名、応用 化学 2 名)、大学院生 4 名 (修士 2 年 3 名 (創造理工 2 名、宇宙航空 1 名)、修士 1 年 1 名 (宇宙航空 1 名)) を受入れ、研究指導を行う他、国内外の学会発表なども行わせた。 2024 年度は学部生 4 名 (宇宙航空 4 名)、大学院生 2 名 (修士 2 年 1 名 (宇宙航空 1 名)、修士 1 年 1 名 (宇宙航空 1 名)) の受け入れをおこない、引き続き研究指導等の教育活動を行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> 科研費研究 (継続)、特別研究費 (採択) による研究を行った。2025 年度科研費、民間資金等に応募した。 i-Spot・SCDC 基礎基盤研究タスクフォース (“ISC タスクフォース”) を毎月開催し、石狩超電導・直流送電システム技術研究組合の参画企業および関係研究者との打合せを密に行なった。結果として、石狩超電導直流送電実証施設での最終実験を終了し、「回線 2」の解体作業を完了し、技組の解体を実現した。また、超伝導センター所属教員によるスタッフミーティングを毎月開催し研究成果及び外部資金の獲得に繋げた [1111a] 核融合研との共同研究に採択された。 教育活動として、学部生 4 名 (宇宙航空 4 名)、大学院生 2 名 (修士 2 年 1 名 (宇宙航空 1 名)、修士 1 年 1 名 (宇宙航空 1 名)) を受入れ、研究指導を行い、国内外の学会で発表させた。また、SDGs 関連授業等で超伝導センター見学を実施し有用な授業実施に寄与した (持続学のすすめ、理科教育法 I・II、科学コミュニケーション、CAAC 等)。 	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 超伝導直流送電の社会実装に向けて必要な研究開発およびその広報活動をセンター職員の相互の協力のもとすすめる センターの研究活動の推進のため、外部資金の獲得に努める 学部生・大学院生の研究教育活動は、外部機関との連携も積極的に活用しながら専門知識を身につけた有能な人間の育成を目標に実施する

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
1111 センター所属の教員全員参加によるスタッフミーティングを定期的（毎月）に開催する方法により、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進、教育・学生指導、センター設備の補修・改修、外部資金（奨学寄付金、科研費等）の獲得に繋がった。[1111b]。1111 学生教育では、学生ミーティングを毎週開催し、学生の研究進捗状況を確認に指導することで、学生の学会発表に繋がった。[1111b]				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 運営委員会を年1回開催し、超伝導センターの活動についての報告・審議を実施している。[1121a]				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	・中部大学が「石狩超伝導・直流送電システム技術研究組合」の本部となり、理事長・専務理事・事務局長を務めた。i-Spot・SCDC 基礎基盤研究タスクフォース（“ISC タスクフォース”）を毎月開催し、技組参画企業および関係研究者との効果的・効率的な技術研究を推進した。結果として、石狩施設での最終実験を終了し、「回線2」の解体作業を完了し、技組の解体を実現した。国（経済産業省）の技術研究組合制度を活用した取り組みは模範（モデル）となり、企業との連携を促進し、技組解散まで成功裡に取り組んだことは特徴である。
項目 No. 1111	研究室毎に教員、学生参加による学生ミーティングを毎週開催し、学生の研究進捗状況やプレゼン能力の向上を積極的に促進した。学生が学会発表も行っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	・各教員が各科研費・特別研究費・民間資金にも応募を拡大した。 ・石狩超電導・直流送電システム技術研究組合（i-SPOT）を解散し、精算会を立ち上げた。 ・石狩施設のリモート監視システム開発が評価され、さくらインターネット株式会社より奨学寄付金をいただいた。

<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携を積極的に行い、ヘリカルフュージョン株式会社と秘密保持契約を締結し、共同研究の検討を進めることとなった。 ・教育活動について、2025年度は学部生4名（宇宙航空4名）、大学院生3名（修士2年2名（宇宙航空2名）、修士1年1名（宇宙航空1名）の受け入れをおこない、引き続き研究指導等の教育活動を行う。SDGs関連授業など、学園の教育活動に積極的に寄与する。
今後の改善・向上方策
外部資金獲得を拡大するため、科研費申請に加えて、企業との共同研究の検討を進める。教育においては、中部大学の特徴である「SDGs教育」の一翼を担う役割を果たす。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 超伝導直流送電（SCDC）に関わる研究を推進する。そのための外部資金を獲得する（奨学寄付金を含む）。 2. 再生可能エネルギーに関わる研究を推進する。そのため企業等との共同研究を検討し、外部資金を獲得する。 3. 研究者個人の科研費・特別研究費等による研究を推進する。外部資金の獲得に努める。 4. 学部生・大学院生の研究教育活動を通して人材育成に寄与する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	超伝導・持続可能エネルギー研究センター運営委員会議事	△
1111	a	スタッフミーティング議事メモ	△
1111	b	学生ミーティング資料	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 外部機関との連携を積極的に行い、企業等との共同研究や研究者個人の外部資金の獲得を目指している。超伝導センター所属教員によるスタッフミーティングを毎月開催し、研究成果及び外部資金の獲得に取り組んでいる。
長所・特色
1121 研究室毎に教員、学生参加による学生ミーティングを毎週開催し、学部生・大学院生の研究教育活動を通して人材育成に寄与している点が評価できる。
留意点
特になし

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	現代教育学研究所
人員構成	専任・嘱託 30 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 11	大学独自の評価項目 (研究推進)
-------	------------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのプロジェクトが独自に活動を展開しているため、個別には重点目標を設定しているが、研究活動の推進が計画的になされているかを、逐次、トータルに把握するため、予算の執行と同時に進捗状況を確認する。 ・10年を経たプロジェクトにおいては、保育・教育実践力向上のためのより明確な支援を実施すること、また子どもや教育現場の状況の変化に対応することが必要であり、関係機関と連携を図る。 ・研究プロジェクトの成果を基にして、そのプロジェクトの性質を踏まえて、科研費申請等の外部資金獲得の可能性を探る。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> ・4つのプロジェクトにおける研究活動の推進が計画的になされているかについては、秋 (9-10月) に研究プロジェクト代表者による運営委員会を開催し、研究の進行状況及び、予算の執行状況について報告をし、予算配分についての研究プロジェクト間での調整を行っている。また、年度末 (2月末~3月初旬) において、現代教育学研究所プロジェクト研究発表会を行い、全研究所所員が参加の元、研究成果の発表および情報交流を行っている。 ・10年以上が経過している研究所のプロジェクト活動に関しては、社会情勢の変化を反映した活動内容の変更を行っており、研究プロジェクトに関わる関係機関 (春日井市教育委員会等) との連絡調整を毎年定期的実施してきている。 ・研究プロジェクトの性質を踏まえた、外部資金の獲得については、2024年度において、「劇団くれよん」が、外部資金の申請、獲得をし、海外 (大韓民国) におけるプロジェクトを実施することができた。 	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所会議及びプロジェクト代表者会議を不定期に開催しているが、運営委員会の開催は実施計画がなく、研究所全体の活動を検証するための会議の設定が必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究所会議については、年度当初と年度末に、研究所所員を対象に実施している。特に、年度末において、現代教育学研究所プロジェクト発表会を実施し、1年間の取り組みについて情報交流をすることで、活動検証の機会としている。また、プロジェクト代表者会議については、秋学期 (9~10月) に実施し (対面もしくは、メール会議)、計画の実施状況についての情報交換および、研究所プロジェクト予算の調整を行っている。 	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<p>2024年度における現代教育学研究所の重点目標は、以下の通りである。</p> <p>1) 地域の教育機関等と連携したプロジェクトに研究所員、院生、学生が参画することにより、それぞれの教育力・研究力を向上すること。</p> <p>2) 近隣地域（春日井市等）の保育・教育機関と連携したプロジェクトの推進により、地域の育児力、教育力、学力向上への貢献をすること。</p> <p>3) 2022年度より、現代教育学研究所が中部大学大学院教育学研究科へ転置したことを受け、教育学研究科と研究所の関係を再構築し、プロジェクトにおける教育研究を更に充実させること。</p> <p>4) 他研究機関との補完的連携体制を構築することで、研究所活動の高度化を図ること。</p>

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
<p>1111 現代教育学研究所は、ミッションとして①学部教員・大学院生の研究の推進、②春日井市等の近隣の保育・教育機関との交流、③春日井市等の近隣社会における育児力、教育力学力向上への貢献を掲げ、4プロジェクト（わんぱく隊・すくすく隊・子どもアカデミー・劇団くれよん）を実施している[1111a][1111b]。</p> <p>中部大学現代教育学研究所は、現代の教育に対していかに貢献し得るかということを研究所のミッションとしており、昨年度は、「現代における特別支援教育の課題と展望」をテーマとして掲げ、このテーマに最も通じておられる講師をお招きし、2025年2月28日に現代教育学研究所FD&SD講演会を開催した[1111c]。</p> <p>3月には4プロジェクトの研究発表会を開催し、活動の成果を検証している [1111d][1111e]。</p> <p>研究所の各プロジェクトの活動の成果をエビデンスとして示すために 2024年度の卒業生に対してアンケート調査を実施した[1111f]。また、「わんぱく隊」では成果報告書を刊行し、プロジェクト内において活動を点検・評価して検証した結果を示している[1111g]。</p>				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
<p>1121 研究所会議及び4プロジェクト代表者（運営委員）による「代表者会議（運営会議）」を設置している[1121b]。</p> <p>2024年5月には第1回現代教育学研究所会議を開催し、2024年度の研究所所員の確認およびプロジェクト毎の予算の確認がなされた[1121a]。</p> <p>2024年7月に第1回代表者会議（運営会議）を行い、「劇団くれよん10周年韓国との交流企画」について提案がなされた。2024年10月に第2回代表者会議（運営会議）を行い、「劇団くれよん10周年韓国との交流企画」の予算配分の審議・承認および各プロジェクトの活動状況の報告が行われた。また、劇団くれよんの外部資金の申請・獲得（「チャレンジ『韓国の子どもの心をつかむ劇を届けよう！』」公益財団法人日韓文化交流基金、令和7（2025）年度人物交流助成事業）についての報告があった [1121b] [1121c]。</p> <p>2024年11月に第3回代表者会議（メール会議）を行い、2024年度予算の配分について審議・承認している[1121d]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	「わんぱく隊」は、全国の教員養成校で実施されているフレンドシップ活動では見られない活動（1. 保幼小の連携を意識したプログラムの開発、2. 特別支援教育・障害児保育に特化した支援グループの設置と専門教員による学生支援）を実施している。
項目 No. 1111	「子どもアカデミー」が実施している土曜チャレンジアップ教室は、春日井市教育委員会、公立小学校、大学の連携で実施しており、全国的に地域密着型学生ボランティア活動の先駆的なモデルケースとして、他県からの視察が実施された[1111h]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのプロジェクトが独自に活動を展開しているので、個別には重点目標を設定しているが、研究活動の推進が計画的になされているかを、逐次、トータルに把握するため、予算の執行と同時に進捗状況を確認する。 ・10年を経たプロジェクトにおいては、保育・教育実践力向上のためのより明確な支援を実施すること、また子どもや教育現場の状況の変化に対応することが必要であり、関係機関と連携を図る。 ・研究プロジェクトの成果を基にして、そのプロジェクトの性質を踏まえて、科研費申請等の外部資金獲得の可能性を探る。
今後の改善・向上方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・4つのプロジェクトに関しては、独自に活動に展開をしているので、各活動の計画的な研究活動の推進については、それぞれの予算の執行の際に、研究所長が各プロジェクトの研究活動の進捗状況を確認している。 ・4つのプロジェクトは、春日井市教育委員会を始めとした、地域の関係機関との連携の上で進行しており、その連携において、保育・教育現場の状況の変化に常に対応している。 ・研究プロジェクトに関しては、当該プロジェクトの研究成果のエビデンスを年度末に得て、現代教育学研究所紀要等に論文を発表し、研究実績を積み重ねており、外部資金獲得の可能性を常に窺っている。 	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所会議及びプロジェクト代表者会議を不定期に開催しているが、運営委員会の開催は実施計画がなく、研究所全体の活動を検証するための会議の設定が必要である。
今後の改善・向上方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度は、プロジェクト代表者会については、4-5月に年度・予算計画案の検討、9-10月に進捗状況の確認と、次年度予算配分の検討、2月にプロジェクト発表会を実施することになっている。 	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
<p>2025年度における現代教育学研究所の重点目標は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の教育機関等と連携したプロジェクトに研究所員、院生、学生が参画することにより、それぞれの教育力・研究力を向上すること。 2) 近隣地域（春日井市等）の保育・教育機関と連携したプロジェクトの推進により、地域の育児力、教育力、学力向上への貢献をすること。

- 3)2022 年度より、現代教育学研究所が中部大学大学院教育学研究科へ転置したことを受け、教育学研究科と研究所の関係を再構築し、プロジェクトにおける教育研究を更に充実させること。
- 4)他研究機関との補完的連携体制を構築することで、研究所活動の高度化を図ること。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	現代教育学研究所規程	○
1111	b	2024 年度 研究に係る事業計画と予算の提案	○
1111	c	現代教育学研究所 FD&SD 講演会チラシ	○
1111	d	2024 年度 研究発表会プログラム	○
1111	e	2024 年度 活動状況等報告	○
1111	f	研究所の研究プロジェクトに関する 2024 年度卒業生への調査結果	△
1111	g	2024 年度 フレンドシップ活動報告	△
1111	h	「土曜チャレンジアップ教室」掲載記事	○
1121	a	2024 年度 現代教育学研究所会議 議事録	○
1121	b	2024 年度第 1 回、第 2 回プロジェクト代表者会議議事録	○
1121	c	2024 年度人物交流助成事業 「劇団くれよん 10 周年韓国との交流企画」	○
1121	d	2024 年度第 3 回プロジェクト代表者会議 議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 研究所のミッションに基づき、自治体との連携を図り、地域密着型の活動を含む4つのプロジェクトを展開している[1111b]。プロジェクトには、学生が主体的に関わり、年度末には研究成果発表会を開催し、活動の成果を検証している [1111d][1111e]。 1121 研究所会議およびプロジェクト代表者による会議を年間複数回開催し、事業計画、予算配分、実施報告を行っている[1121a][1121b][1121c][1121d]。
長所・特色
1111 1121 研究所のミッションが明確に定められており、ミッション遂行のためプロジェクトの実施および点検、ならびに FD&SD 講演会を開催していることは評価できる[1111b][1111c][1121a][1121b][1121d]。 また、自治体と連携を図り、地域密着型の活動を展開しているのは特長的と言える[1111d][1111e]。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	生産技術開発センター
人員構成	専任・嘱託 7 人、派遣・契約事務補助員 人

基準 11	大学独自の評価項目 (研究推進)
-------	------------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1111	プロジェクト研究は企業等外部機関との共同研究が多く、研究に参加する学生にとって実践的教育の場をさらに提供する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
生産技術開発センター講演会および年度末研究発表会において、より多くの学生に聴講してもらえるよう、研究員および運営委員を通じて、参加案内を出す。特に関係研究室の大学院生を中心に、参加の案内を広く周知する。また学生による研究報告も設定し、報告可能なようにした。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
センター研究員は活動成果の発表、公表の機会を積極的に確保し、特に新設学科などに申請を促す。運営委員会はセンター活動の点検・評価機能の向上を図るとともに、その検証過程を議事録等で明確化した。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
生産技術は工学分野において、あらゆる工学分野においても重要な技術である。特に、生産システムの AI 化、自動化の促進、半導体生産の再構築については国策でもあり、本センターの技術講演会、研究員に対しても、より重点的に取り入れるようにする。また学生の講演の機会を設け、学生の教育研究を活発化させる。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
生産技術開発センター（以下「センター」という。）は、活動内容ならびに運営方法などを定めたセンター規程に基づき、生産技術に関する研究開発を産学が協力して行い、それにより大学の発展と地域社会に貢献することを目的として活動を行っている[1111a]。また、9-10月頃には講演会[1111b][1111c]、年度末の2月頃には研究発表会[1111d][1111e]を開催し、プロジェクトの研究成果を公表している。センターにおける研究課題ならびに研究員（学外研究員を含む）は、毎年公募[1111f]により募集し、4件程度を採択している。2024年度研究課題の募集および選考方法は運営委員会で審議、決定し、外部の競争的資金に採択された研究者や申請者を優先し、2024年度は運営委員会にて選考の結果、4件を採択し、センター長が決定した[1111g]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
当年度の活動方針および活動計画ならびに活動成果、目的達成状況については、日頃から運営委員会において審議、討論を行い、活動を検証できるようにしている[1121a]。現在、自己点検・評価の基準は特に設けていないが、運営委員会における審議が自己点検・評価の機会に相当し、毎回議事録を作成し、保管している[1121a]。活動の概要と研究員の研究業績を活動報告書[1121b]としてまとめ、また、年次報告書はWeb（センターホームページ）で公開し、第三者による客観的な点検・評価の機会としている[1121c]。また、センター研究員は研究推進と外部資金の獲得に努めている[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	センター所属研究員は科研費をはじめ各種競争的資金に応募し、採択実績も相当数に上る。これらの実績は活動報告書にまとめて提出している[1121b]。
項目 No. 1121	得られた研究成果は毎年2月頃に研究発表会を開催[1111e]して公表するとともに、活動の概要をセンターホームページ上でWeb公開している[1121c]。
項目 No. 1111	プロジェクト研究は企業等外部機関との共同研究が多く、研究に参加する学生にとって実践的教育の場が提供できる[1111g]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	プロジェクト研究は企業等外部機関との共同研究が多く、研究に参加する学生にとって実践的教育の場をさらに提供する。
今後の改善・向上方策	
生産技術開発センター講演会および年度末研究発表会において、生産技術に関連する学会、日本機械学会東海支部、精密工学会東海支部、砥粒加工学会にも講演会と報告会を協賛してもらい、他大学、多くの企業にも案内を行き届かせる。より多くの学生に聴講してもらうように、研究員および運営委員を通じて、参加案内を出す。特に関係研究室の大学院生を中心に、参加の案内を広く周知する。また学生による研究報告も設定し、報告可能なようにする。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行う。
今後の改善・向上方策	
センター研究員は活動成果の発表、公表の機会を積極的に確保し、特に新設学科などに申請を促す。運営委員会はセンター活動の点検・評価機能の向上を図るとともに、その検証過程を議事録等で明確化する。学内においては、研究分野の横通しを積極的に推進し、学外では生産系の学会との協賛を推進し、本学の研究ステータスのPRを活発化し、学外交流も積極的に推進する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
2024年度は生産技術に関する学会（精密工学会、砥粒加工学会など）に協賛化してもらい、学会でのPRを推進した。本年度は、本学の研究ステータスのPRを更に活発化するために、精密工学会、理化学研などでシンポジウム企画を申請して学会会場で開催し、全国的な大学、企業と交流を図る。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	中部大学生産技術開発センター規程	○
1111	b	2024年度生産技術開発センター講演会案内状	○
1111	c	2024年度生産技術開発センター講演会プログラム	○
1111	d	2024年度生産技術開発センター研究発表会案内状	○
1111	e	2024年度生産技術開発センター研究発表会プログラム	○
1111	f	2024年度生産技術開発センター研究員募集要項	○
1111	g	2024年度生産技術開発センター研究課題・予算一覧表	○
1121	a	2024年度生産技術開発センター運営委員会議事録（第1～3回）	○
1121	b	2024年度生産技術開発センター活動報告書	○
1121	c	2024年度生産技術開発センター年次報告書 https://www.chubu.ac.jp/research/institute/production-engineering/research-report/report-2024/	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
1111 1121 同センターは規程[1111a]に基づいた目的の達成のために、必要な組織及び委員会を持ち、適正に運営がなされている。[1121a][1121b][1121c]、研究組織[1111g]に学生も参加させ、高度で実践的な教育の場を提供するとともに、企業との連携により、課題関連分野への学生進路や、地域産業振興にも有用であると思われる。成果発表は講演会、研究発表会開催案内・チラシなど[1111b][1111c][1111d][1111e]により確認できる。	

長所・特色
センター所属研究員の科研費をはじめ各種競争的資金への応募、採択実績も相当数に上っており、本学の研究活動振興に寄与している。外部資金獲得は本学の経営にも寄与するものであり、本学の研究ステータスのPRを更に活発化させるものである。研究に学生も参加させており、実践的教育により学生のモチベーション・満足度の向上のみならず就職や学生募集にも有用である。[1121b] [1121c]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	AI 数理データサイエンスセンター
人員構成	専任 6 人、兼任 17 人、 事務員 2 人

基準 11	大学独自の評価項目 (研究推進)
-------	------------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1111	より幅広い研究交流
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
国内外の研究者を招聘した交流を行った。2 名の海外の研究者を招聘し、最新研究の講演と研究者間での活発な討論を行った[1111a]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	受講者数が増加した場合でも、きめ細かい教育ができるようにする方策
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>すでにスタートしている AI 数理データサイエンスプログラム (リテラシーレベル) に合わせて、(応用基礎レベル) のコースを準備し、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」に認定された [1121a]。2024 年度より「問題解決のためのアルゴリズムとデータ構造」、「人工知能アルゴリズムの活用」、「データサイエンスプログラミング」を新たに開講した。学生に AI 数理データサイエンスの重要性をアピールした結果、2024 年度時点において、全学部全学科からリテラシーレベルは 1032 名、応用基礎レベルは 546 名が登録している [1121b]。</p> <p>また、オンデマンド授業においては、課題提出にてスキル習得レベルを確認し、習得できていない受講者にはメールおよび授業の質問時間を使って技術習得のサポートを行ったり、遠隔講義で用いる LMS として Google Classroom を用いている科目では、授業時間内外での学修が効果的となるように、課題の提示とともに解説動画を Google Classroom 内に配置している。</p>	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<p>研究活動、特に幅広い分野の人材との交流の充実を図る。</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育の大切さを広く学生にアピールして学生の関心を高め、同時に教育内容の一層の充実をはかる。</p>

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、

対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
AI 数理データサイエンスセンターの規程に基づき、研究・教育活動を行っている[1111b]。 2024年度は、所員が代表を務めている大型研究プロジェクトが3件、科研費等プロジェクトが7件、研究分担者となっているプロジェクトが6件あった。また2024年度は、コロキウムを6回、AI活用セミナーを3回、FD講演会を2回開催した [1111c]。 各構成員の研究進捗は論文、シンポジウム等での発表、Web ページによる情報発信などで公表している [1111d]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
毎月運営委員会を開催し（原則第1水曜日）、議事録を作成、保管している [1121c]。 AI 数理データサイエンスセンター提供科目として、種々の数理・データサイエンス・AI に関する講義を行っている [1121d]。文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に基づくAI 数理データサイエンスプログラム（応用基礎レベル）が2024年度新たに認定され、リテラシーレベル、応用基礎レベル共に、プログラム独自の自己点検評価を行っている [1121e]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	多くの研究プロジェクトが進行している。 他分野の研究者と共にシンポジウムを開催し、幅広い知見を得た。
項目 No. 1121	最先端のAI の活用方法や最新のトレンドなどを講演するAI 活用セミナーを、本学教職員、学生に向けて行い、全学的なAI 活用を推進した。
項目 No. 1121	すべての学生がデータサイエンスを学べるように基本から高度な応用まで学習できる講義を作成し、また遠隔授業にも対応できるようにした。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	より幅広い研究交流
今後の改善・向上方策	
AI やデータサイエンスの分野は、日々進歩している。また企業の優れた技術や知見も学ぶ必要がある。またデータサイエンスを幅広い分野で応用することも重要である。そのためより幅広い分野の研究者との交流をより進める必要がある。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	受講者数が増加した場合でも、きめ細かい教育ができるようにする方策
今後の改善・向上方策	
データサイエンスを学びたいという学生は増え続けている。今後ますます履修者が増加すると、一人一人の学生に合わせたきめ細かい教育が行いにくくなる可能性がある。そのため自習用の教材開発、自動採点システムの開発など IT 技術を活用して、履修者が増加しても教育レベルが低下しないような方策をはかる。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
研究活動、特に幅広い分野の人材との交流の充実をはかり、また最新の研究の知見を得る。 数理・データサイエンス・AI 教育の大切さを広く学生にアピールして学生の関心を高め、同時に教育内容の一層の充実をはかる。学生、教職員向けに AI の活用例を広報する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	2024 年度 研究所・センターの活動報告	○
1111	b	AI 数理データサイエンスセンター規程	○
1111	c	CMSAI 研究プロジェクト https://www.cmsai.jp/research_project/	○
1111	d	CMSAI HP “information” https://www.cmsai.jp/news/	○
1121	a	文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定のお知らせ」 https://www.chubu.ac.jp/news/38626/	○
1121	b	2024 年度 AI 数理データサイエンスプログラム登録者単位修得状況	○
1121	c	2024 年度 AI 数理データサイエンスセンター運営委員会議事録	○
1121	d	AI 数理データサイエンスセンター提供科目一覧	○
1121	e	AI 数理データサイエンスプログラム自己点検評価	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111, 1121 毎月運営委員会を開催し、議事録の作成が適切に行われている。 運営委員会を通じて継続的な自己点検・評価を実施し、教育内容の改善に取り組んでいる。[1121c]
長所・特色
1121 文部科学省の認定プログラムに認定されている。[1121a] セミナーを本学教職員、学生に向けて行い、全学的な AI 活用を推進している点が評価できる。[1121c]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	環境保全教育研究センター
人員構成	教員 6 人、専任職員 3 人

基準 11	大学独自の評価項目 (研究推進)
-------	------------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1111	センター長・副センター長・ユニット長を中心とした活発な活動を行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>恵那キャンパスの利活用・地域連携などを目的として 2021 年 7 月 1 日に開設。自然環境・伝統文化・科学技術を研究テーマとした 5 つのユニットが中心となり東濃 5 市や地域住民と連携して活動を実施している。</p> <p>5 月にセンター長、副センター長、事務局で打合せを行い、活動計画の情報共有を行った [1111a]。また、センターのホームページを通じて各ユニットの主な活動状況を掲載することで組織内の活動をユニットを超えて確認・共有することを図っている。</p>	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・恵那研修センターを中心とした東濃 5 市との連携など、より一層の環境保全教育研究センター活動の推進。 ・JST COI-NEXT への応募

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織 (研究所、研究系センター等) において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明	<p>・環境保全教育研究センター活動の推進…東濃エリアの食文化や郷土料理を調査したブックレットの発行や地域の夏祭りに各ユニットを超えて出店 (地歌舞伎のアニメ上映・科学実験・プラネタリウム等)。里山サークルの結成や森の健康診断を実施し、センターの設置目的に沿った活動を概ね実施できている [1111b]。</p>			

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
年度活動計画をセンター長および副センター長で協議のうえユニットごとに活動を行っている。また、運営委員会において活動を報告し、意見を聴取のうえ必要に応じて次年度以降の改善に努めている[1111b] [1121a]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	野生生物保全、伝承文化、食文化、農業・林業再生など、多角的な活動を通じて対象地域の多様な層への当センターの認知度および環境保全教育に貢献

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	各ユニットにおける活動の安定的な運営体制の構築
今後の改善・向上方策	
ユニット活動において、より多くの学生が参加できるよう周知の徹底を図るとともに、負担軽減につながる体制構築に向けてセンター内および関連部署との協議を行う。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
・恵那研修センターを中心とした東濃5市との連携など、より一層の環境保全教育研究センター活動の推進。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	環境保全教育研究センター センター長・副センター長打合せ記録	○
1111	b	2024 年度環境保全教育研究センター運営委員会資料	○
1121	a	中部大学環境保全教育研究センター規程	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 1121 恵那キャンパスの利活用および東濃エリアにおける地域連携活動について、年度活動計画をセンター内で協議のうえ、個別ユニットごとに活動を行っている[1111a][1111b]。
長所・特色
1111 東濃エリアにおける野生生物保全、伝承文化、食文化、農業・林業再生など、多角的な活動を通じて対象地域の環境保全教育に貢献していることは評価できる[1111b]。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	天文台
人員構成	専任・嘱託 17 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 11	大学独自の評価項目 (研究推進)
-------	------------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1111	増える学外依頼への対応
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
中部大学天文台への外部依頼が年々増えており、2024 年度も 10 件を超える依頼があった。工学部・理工学部事務室の支援により、学外依頼への対応と学内起案決裁等の学内手続きが円滑になっている。また、学生サポーターの経験値の蓄積が増えることで、イベント運営が効率的かつ効果的に行うことができるようになっている [1111c]	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
中部大学天文台では設立理念に沿った活動が行われており、今後も継続していく。天文台に参加する学生数が増加し、学生独自の対外活動も活発になっていることから、天文台としての支援方法を検討する。天文台として、引き続き、地域の天文・理科教育支援と地域連携、人材育成を推進していく。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	S
評価の視点	研究組織 (研究所、研究系センター等) において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明	中部大学天文台の設立理念及び研究組織 [1111a] に基づき、当初計画を超える活動ができている。学生主体の活動と地域の理科・天文教育の支援も活発に行うことができ、2024 年度は年間通して 1000 人を超えるイベント参加があった [1111c p. 2-p. 5]。天文台では学部学科を超えた学生主体の活動が実現できており、人材育成にも貢献			

できている。2024年度には、初めてとなる天文学分野での修士課程修了生を輩出することができた[1111d]。これら活動のすべては天文台の報告書にまとめている[1111c]。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
天文台の運営にかかる重要事項は、天文台運営委員会の審議で決定するようにしている[1111b]。2024年5月8日開催の第1回運営委員会（メール審議）では、天文台体制と自己評価・点検（案）が審議・承認された[1121a]。2025年2月25日開催の第2回運営委員会では、天文台規程の改正と天文台運営委員の体制、2025年度客員教授等・フェローの申請が審議・承認されている[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	<ul style="list-style-type: none"> ・文系・理系の枠を越え、多くの学生が主体的に活動できている。 ・理科・天文教育での地域交流が活発になり、新たな連携も生まれている。 ・天文学分野での大学院生の排出と人材育成が始まっている。 ・中部大学に天文台があることを知って受験をした新入生が増えている。
項目 No. 1121	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会のオンライン化により、議事内容が電子化され記録できている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	学生サポーターの活動進捗の分野間差の拡大
今後の改善・向上方策	
学生サポーターの活動は、観測からモノ作り、人文的分野など多岐にわたっているため、分野ごとに活動の活発度や進捗に差異が生じてきている。このことは今後の天文台の活動にも大きく影響すると予想されるため、ある程度のバランスをとる必要がある。改善策として、学生間での情報交換や意見交換の場を多く設けること、また、専門分野以外での交流の機会を設けることを検討している。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
中部大学天文台では設立理念に沿った活動が行われており、年々、その活動の幅が広がっている。2024年度には、天文分野での人材輩出が始まり、学生独自の活動も拡大している。とくに、地域の大学の天文系課外活動との交流が進み、中部大学天文台のノウハウを広める役割を担っている。今後も引き続き、地域の天文・理科教育支援と地域連携、人材育成を推進していく。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	中部大学天文台規程	○
1111	b	2024 年度運営委員会活動報告	○
1111	c	2024 年度天文台活動報告	○
1111	d	2024 年度修士論文	△
1121	a	第一回天文台運営委員会	○
1121	b	第二回天文台運営委員会	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 1121 中部大学天文台規程に基づいて、天体観測施設の運用および宇宙理学・天文工学に関する教育・研究活動などを行い、天文教育普及の中心的施設として研究活動を推進している。天文台年間イベントの主催、学外からの依頼による施設見学・出前講義・出張観望会など、設置目的である教育研究活動を推進し、天文学を通じた地域連携を活発に行っている。専門研究及び教育に関する研究推進は外部資金獲得に結び付き、近隣市町村や科学系博物館との連携は、本学の教育研究による地域貢献の実を示すものである。天文台の運営にかかる重要事項は、天文台運営委員会で審議をしたうえで決定するようにしている[1111a][1121a][1121b]。
長所・特色
1111 天文学分野で初めての修士課程修了生を輩出したことは、学部学科を越えた学生主体の活動が実現していることで人材育成に繋がっていることや、教職員が協同して教育・研究活動を継続したことによる成果の1つとして評価できる。授業サポートとして、文理にわたる正課授業でのテーマの提供や客員講師によるプラネタリウム解説、天体観測所の施設利用を提供している。天文台イベントの主催、天文学生サポーターによる大学内外での自主活動など、学生が主体となった活動が活発である点。[1111c][1111d]。
留意点
特になし。

2025年度 (対象年度 2022-2024年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	教育技術部
人員構成	専任・嘱託 23人、派遣・契約事務補助員 0人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	工学部・理工学部を中心に各技術員の技術力を組織的に活かし業務を進める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
工学部・理工学部に対して、最適に業務を行う組織体制としている。学部系担当として副部長を配置し、各系長を含めた縦横連携型の組織運営を実施している[1121a]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	教育技術部関連の施設を活用し、学外向けPR活動を積極的に展開する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
工学デザインルーム (※1)を中心に、中部大学での学びの内容を紹介した。各系の高い技術力でサポートをしている実験実習は、中部大学の強みの一つであり、その取り組みをオープンキャンパスなどでPRした[1121b]。 ※1: 2025.4.1~ネーミングライツ事業に基づき HOKUTO FACTORY INOVATOR LAB に呼称変更	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 系間の連携を加速させ、幅広い業務に対して組織力で対応する。 技術力を活用した教育支援を実施するため、個人の技術力向上を図る。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S:高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A:概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B:取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C:今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
------	------	--	------	---

評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。
現状説明	
<p>中部大学工学部教育技術部（以下 [技術部] という。）の目的、活動内容および運営方法等は技術部規程に定められている[1013a]。 2024 年度は、技術部長を議長とし、工学部及び理工工学部のそれぞれ 3 役（学部長、副学部長、学部長補佐）に技術部部長、副部長、系長を加えたメンバーによる運営委員会を隔月開催し、活動計画に対する実施状況等をチェックするとともに目標達成度を検証した。また、運営委員会を開催しない月は技術部長が系長会議を招集し、実務管理者による活動の点検・評価を行った。いずれの会議も審議内容は毎回議事録を作成し、関係者に配付するとともに保管している[1013b][1013c]。</p>	

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。</p>			
現状説明				
<p>4 月に年間活動計画を策定し、その進捗状況を運営委員会に報告した[1121c]。 年度末の 3 月には報告会および全体会を開催し、1 年間の成果と実績を部内全員で共有するとともに個人面談を実施し、全部員の活動状況の把握を行った[1121d][1121e][1121f]。 1 年間の活動の概要は「2024 年度中部大学教育技術部報告 VOL.26」にまとめ、点検・評価資料とした[1121g]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	運営委員会、系長会議、全体会を開催し、情報共有と活動の点検・評価を行っている [1013b] [1013c] [1121e]。
項目 No. 1121	年度末にオンラインを併用した技術部報告会を開催し、活動成果を公表した[1121d][1121g]。
項目 No. 1121	年度末に個人面談を行い、所属部員の状況把握を行うとともに、教育・研究面において更に質の高い技術支援が出来るよう環境整備に努めている[1121f]。
項目 No. 1121	一年間の活動とその成果を年次報告書にまとめ点検・評価資料とした[1121g]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	工学部、理工工学部を中心に各技術員の技術力を組織的に活かし業務を進める。
今後の改善・向上方策	
各個人のスキルを更に向上させる取り組みと、各系の融合で横断的に業務を遂行する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教育技術部関連の施設、技術スキルを活かし、外向け PR 活動を展開する。
今後の改善・向上方策	
<p>実験・実習場を利用し、中部大学での学びを紹介する活動を継続する。 民間企業で培った経験と技術力を活かした実験・実習の指導サポートは、中部大学の強みの一つであり、その取り組みをオープンキャンパス、中部大学フェアなどで PR してゆく。</p>	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・技術の幅を広げる> (さらに高いスキルを身に付けた教育技術員となり、プロ集団としていく) ・横連携業務を加速させる。(各系の連携を使った組織的な業務を遂行する)

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	教育技術部 1013a : 2024 年度 中部大学教育技術部規程	○
1013	b	教育技術部 1013b : 2024 年度 教育技術部運営委員会議事録	○
1013	c	教育技術部 1013c : 2024 年度 教育技術部系長会議議事録	○
1121	a	教育技術部 1121a : 2024 年度 組織表 2024. 4. 1 付	○
1121	b	教育技術部 1121b : 2024 年度 学外 PR 活動	○
1121	c	教育技術部 1121c : 2024 年度 教育技術部年間計画	○
1121	d	教育技術部 1121d : 2024 年度 教育技術部報告会プログラム	○
1121	e	教育技術部 1121e : 2024 年度 教育技術部全体会	○
1121	f	教育技術部 1121f : 2024 年度 教育技術部個別面談日程表	○
1121	g	教育技術部 1121g : 2024 年度 教育技術部報告書 Vol. 26	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料

● : 提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△ : 現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013, 1121 年間活動計画を策定し、運営委員会で活動計画に対する実施状況等のチェックが行われている。[1013b] [1121c] 具体的な活動内容や取り組みをまとめた報告書が作成されている。[1121g]
長所・特色
1013 運営委員会や教育技術部系長会議を通じて、具体的な検討内容や見直し含めた議論や意思決定が行われ、議事録が作成されている。[1013b] 1121 体系的な組織により機能的かつ継続的な支援につなげている点が評価できる。[1121a]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学習支援室 (学生教育部教務支援課)
人員構成	専任・嘱託 12 人 (兼務 2 名含む)、派遣・契約事務補助員 4 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	学修環境の整備
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
管財部協力のもと、室内のパーテーションを撤去し、ホワイトボードを活用した上で科目間の空間を確保するなど、限られた予算の中で創意工夫のもと環境改善に努めた。また机や椅子を刷新し、PC を新たに購入するなど、室内整備を行った。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	広報発信の強化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
認知度向上策の1つとして、学内広報誌である中部大学通信「ウプト」231号で特集記事を掲載し、教職員並びに学生に対して周知を図った [1121a]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
利用者増加に向けた学修環境整備および広報発信の強化促進。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	B
------	------	--	------	---

評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。
現状説明	
(2)適宜運営上の課題が生じた際には、教務部⇄教務支援課で相談の機会を設けた上で円滑な運営を心掛けている。ただし、学習支援室に関しては管理運営組織として設置されているにも関わらず、室長等の役職発令はなく組織として十分な体制が整備されていない。今後学力不足等の学生を支援する組織として重要なセクションとなりうる位置づけであることを踏まえると、適切な人員配置とともに環境整備が必要な組織の1つである。	

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	B
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121(1) 学習支援室は2004年4月に、他大学における取り組みを参考とし、多様な学生のニーズを満たし、学習を通じて気軽に相談できる場所を目指し設置された。現在は教務部の下に設置され、基礎学力の向上を目的に「数学・英語・物理・化学」の4科目を中心に経験豊富な教員による手厚い指導が行われている [1121c]。利用状況については、コロナ禍以降増加傾向にあったが、2024年度は大きく減少した [1121d] [1121e]。更なる情報発信と学修環境整備が課題としてあげられるが、限られた予算、人員では限りがある。 1121(2) 委員会組織は設置しておらず、管理運営は教務支援課を中心に遂行しており、適宜、教務部長への相談・判断のもと適切な運用に務めている。一方、非常勤相談員の高齢化が進んでおり、持続的な管理運営体制とは言い難い状況にある [1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学修環境整備および広報発信の強化促進。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学修環境の整備
今後の改善・向上方策	
室内については本棚の買い替えを計画中。観葉植物を入れるなど学生にとって利用しやすい環境を更に目指す。また、将来的にはフリーアドレス化を進め、学生のニーズに合わせ、柔軟な相談環境の整備を目指す。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	広報発信の強化
今後の改善・向上方策	
室外が、殺風景な状況となっていることから環境改善を目指す。具体的にはプロジェクターでの投影等を活用し、利用者促進を狙うなど、学習支援室の存在を更に広く認知してもらえるよう創意工夫に努める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	非常勤相談員の高齢化、学生支援員の活用検討

今後の改善・向上方策
<p>持続的な管理運営が実現できるよう改善を図る。午前中を中心に非常勤相談員が手薄な時間帯があるため、学生による運営アシスタントの導入を検討し、時間に左右されないシームレスな学習支援体制の構築を目指す。</p> <p>また、学科独自の学習支援室との連携などを強化するなど、多様なニーズに対応することも踏まえ、中期的な体制整備を検討する。</p>

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
<p>持続的な学習支援体制整備に向けた管理運営・環境整備・広報活動を行う。</p>

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2024 年度中部大学通信「ウプト」231 号 (11 月)	○
1121	b	2024 年度学習支援室担当教員一覧	●
1121	c	2024 年度時間割 HP 掲載データ	○
1121	d	2024 年度月別利用者数一覧 (前年度等との比較)	○
1121	e	2024 年度科目別利用者数一覧 (2024-2006)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
<p>1013 1121 基礎学力の向上を目的に経験豊富な教員による手厚い指導が行われている[1121c]。学修支援室の環境整備に努め「ウプト」231 号で特集記事を掲載し、教職員と学生に対して周知を図り、広報活動を推進している[1121a]。</p>
長所・特色
<p>1121 多様な学生のニーズを満たすよう学修環境および相談環境が整備されている。また、「ウプト」231 号で特集記事を掲載し、教職員と学生に対して学習支援室をわかりやすく紹介し、利用促進を図ったことは評価できる[1121c][1121a]。</p>
留意点
<p>特になし。</p>

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生部 学生相談室
人員構成	専任・嘱託 3人、 派遣・契約事務補助員 0人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	スタートアップセミナー出前授業における心理的予防教育拡充の必要性
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1 年生対象スタートアップセミナーでのカウンセラーによる適応支援を目的とした出前授業では、学生達の「心理的準備性」に資する授業を構成し、学生相談室の認知度の向上と共に、予防的スキル・不調時の対応、危険回避、不安軽減に役立つ情報提供を伝えた [1121a]。学生相談室アンケートの回答率も 81.9%から 88.9%に上昇した [1121b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	「相談に繋がりにくい学生」を支援に繋げる取組の拡充
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学生相談に繋がりにくい学生を支援に繋げるものとして、4 種類の心理教育的グループ (ひとり暮らし入門、自分探しグループ、発達障害傾向のある学生の自助グループ、卒業生との交流会) の企画運営にあたり学内相談室の周知度向上に努めた [1121c]。また、教職員対象の学生支援のための研修会を実施した [1121d]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
来談学生との個別面接を主軸に置きつつ、1 年生対象スタートアップセミナーでのカウンセラーによる出前授業を通して予防的教育を行うことと、学生相談室主催の心理教育的グループ活動での体験を通して、支援を必要としているにもかかわらず支援の網目から抜け落ちてしまう学生を減らすための取組をより積極的に行っていく。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
学内学生支援部署であるキャリア支援課、学生サポートセンタースタッフ及び学部学科教員との連携により多層的な支援を進めてきた。学生支援の最前線にいる教職員の支援力向上のために学生相談室で制作した「学生支援ハンドブック」を用いたコンサルテーションやFSDS活動を実施している[1121d] [1013a]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
学生支援連絡会において、事業計画、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針について報告、意見交換を行っており、学生支援連絡会において、審議、報告された内容については、摘録を作成し保管している[1121e] [1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	スタートアップセミナー（学部1年次の授業）において学生相談室の個別面接で得られた知見を新生入生適応支援教育に活かしつつ「気持ちのスケージング（自分の情緒を客観的にみる練習）」「傾聴訓練」を導入したところ、自己理解他者理解が進んだとの感想が得られた。[1121g]
項目 No. 1121	新生入生対象アンケートを授業（スタートアップセミナー）時に実施、遠隔呼び出し面接によるハイリスク学生対応に繋げた。[1121h]
項目 No. 1121	全学の学生を対象とした自己理解・他者理解のグループ(自分探しグループ)を開催した。[1121c]
項目 No. 1121	学生相談室を利用するコミュニケーションが苦手な学生たちを対象としたグループ(よいコミュ)運営を授業期間中週1回の頻度で実施した。[1121c]
項目 No. 1121	社会人として働くことに不安を感じる学生を対象に、卒後の適応支援のためのプログラム「社会人生活入門」を遠隔実施した。[1121c]
項目 No. 1121	ひとり暮らし学生を対象とした心理教育的グループを実施した。[1121c]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学生自身が学生生活の安心・安全に関する理解を深めるための積極的な周知と啓発
今後の改善・向上方策	
文部科学省から「学生の安心・安全に係る指導・啓発の充実について」の通知がされ（令和7年3月13日付）、「自分の悩みを言葉にすることが大切」である旨が記された啓発文書が発行された。学生がより相談しやすい体制の構築、学生相談室の周知徹底、学内外関係部署関係機関との連携により、学生の悩みや不安に寄り添ったきめ細やかな対応を講じていく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	「相談に繋がりにくい学生」を支援に繋げるための学生の親や教職員からの相談拡充
今後の改善・向上方策	
多様な学生の入学により、教職員からの相談が増加している。支援を必要としているにもかかわらず支援の網から抜け落ちてしまう学生を減らすための取組推進として、学生相談室を利用している学生の親からの相談をより受けやすいような体制構築を行っていく必要がある。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
自主的に学生相談室に来室し主体的に心理的課題について語れる学生の支援に限らず、1年生を対象とする予防的出前授業や学生相談室アンケートの実施、そして学生の親や教職員との連携を通して「相談に繋がりにくい学生」の支援を拡充していく。そのために、学生の親や教職員を対象に、学生理解に役立つ情報発信、学内関係部署の人的資源との連携協働に注力し、不登校・学力不振に関わる教職員や親からの相談にもより積極的に応じていくことを重点目標とする。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	スタートアップセミナーで使用する講義室のご連絡	○
1121	b	2024 年度 新入生学生相談室アンケート回収率一覧	○
1121	c	プログラム案内	○
1121	d	第 157 回キャリアアッププログラム「不安定な情勢下での学生対応、多様化の進む学生の特徴と接し方」案内	○
1013	a	「学生支援ハンドブック 学生の困ったに効く 21 の提案」表紙	○
1121	e	【摘録】2024 年度 第 1 回学生支援連絡会	○
1121	f	【摘録】2024 年度 第 2 回学生支援連絡会	○
1121	g	「社会生活の基礎・大学生の対人関係」ワーク・コメントシート（気持ちのスケーリング）	○
1121	h	2024 年度学生相談室アンケートチラシ	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 相談室構成員のほか、学内学生支援部署であるキャリア支援課、学生サポートセンタースタッフ及び学部学科教員との連携による多層的な支援と連携を図ることで組織の機能が適切に機能しているとみられる。[1013a]
1121 学生支援連絡会において、事業計画、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針について報告、意見交換を行っており、審議、報告された内容については、摘録を作成し保管しており適正な運営がなされていると評価できる。[1121e][1121f]

<p>長所・特色</p>
<p>1013 学生支援の最前線にいる教職員の支援力向上のために学生相談室で制作した「学生支援ハンドブック」を用いたコンサルテーションやFD・SD活動を実施しており、教職員の支援力向上が期待できる点。スタートアップセミナーへの学科外講師としてのカウンセラーによる出前授業、4種類の心理教育的グループ（ひとり暮らし入門、自分探しグループ、発達障害傾向のある学生の自助グループ、卒業生との交流会）など多角的な学生支援事業の企画・運営が行われている点。学生相談室における個別面談で得られた知見を新入生適応支援教育に生かしている点。[1013a][1121a][1121b][1121c][1121d][1121g][1121h]</p>
<p>留意点</p>
<p>特になし。</p>

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	体育・文化センター事務課
人員構成	専任・嘱託 4人、 派遣・契約事務補助員 1人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項	☑ ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	クラブ活動届 WEB 申請手続システム
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年 10 月よりこのシステムが導入され、以前の紙ベースのみの申請に比べ、学生が時間を気にする事なく申請できるようになった。少しずつだが、システムの活用状況が上がってきている[1121a]。	

☑ 課題事項	☑ ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	クラブ顧問との連携、情報提供
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
クラブ顧問による、ガレーンの活用が少しずつ浸透してきたことにより、迅速な形で連携や情報共有ができるようになった[1121b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動情報 (大会結果・活動報告) の集約方法の改善 ・課外活動団体への指導・管理の徹底 ・スポーツ及び文化施設の整備

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	B
------	------	--	------	---

評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。
現状説明	
クラブ顧問との連携、情報提供を効果的に行われるように、 <u>ガルーンシステム</u> を活用し、教員と職員の協働・連携を図っている[1121b]。	

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	B
評価の視点	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
(1) スポーツ及び文化活動の施設は、体育・文化センター事務課が主となりおこなっているが、学園内で、管理する場所が多岐にわたっており、課内の担当だけで管理することは不可能に近い。施設予約システムを活用し、施設使用の授業関係者及び課外教育活動指導者等のお力を借りながら、年間を通して、管理を行っている[1120c]。 (2) 上記における、管理業務、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針については、体育・文化センター規程に基づき、体育・文化センター運営委員会において報告、意見交換を行っており、審議、報告された内容については、議事録を作成し、保管している[1121d][1121e][1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	クラブ活動届 WEB 申請手続システム
項目 No. 1121	学内施設予約状況
項目 No. 1121	クラブ顧問との連携、情報共有

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	体育・文化センター事務課とクラブ顧問間の相互理解の向上。
今後の改善・向上方策	
(1) 体育・文化センター事務課の意図を文書化し、周知する。 (2) 相互理解を図るために、顧問に対しより一層の丁寧な説明を心がけ理解いただくよう努める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	スポーツ・文化施設予約の優先順位について
今後の改善・向上方策	
・施設予約方法について、できる限り明確な方針を文書化し、クラブ顧問やクラブ部員の方々への理解を求める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
1) 課外活動団体及び学外指導者へのコンプライアンス強化 2) クラブ活動情報（大会結果・活動報告）の活用方法の改善 3) スポーツ及び文化施設を活用した地域貢献

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	【クラブ部員用】 クラブ活動届 WEB 申請手続マニュアル	○
1121	b	クラブ顧問との連携、情報共有	○
1121	c	学内クラブ施設予約状況	○
1121	d	2024 年度体育・文化センター運営委員会議事録	○
1121	e	2024 年度地域連携・広報活動（クラブ）検討 WG 議事録	○
1121	f	2024 年度コンプライアンス（クラブ）検討 WG 議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013, 1121 クラブ活動届 WEB 申請手続システムやガルーンの活用により、より円滑な事務処理と情報共有が行われている。[1121a][1121b] 規程に基づき、体育・文化センター運営委員会において報告、意見交換が行われている。[1121d]
長所・特色
1121 地域連携・広報活動検討 WG を実施し、イベントの企画やブランディングの強化に向けた議論や検討が行われている点が評価できる。[1121e]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生寮
人員構成	専任・嘱託 3人、 派遣・契約事務補助員 0人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	学生寮における持続的な改善・向上を目的とした取り組み
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
日々生活している寮生の悩み事や困りごとを吸い上げる目的で学生リーダーや管理人と月に 1 回ミーティングを行い、悩み事や困りごとに適宜対応した。 その他にも学生支援課と管財部で年 2 回行っている打ち合わせに学生寮としての設備的な問題を挙げ、居室の椅子の入れ替えや雨漏り修繕工事を行うなど、生活面及び設備面の改善を継続的にしている[l121a][l121b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
寮生が 1 年間の寮生活を通して成長できることを重点目標とし、それを実現するために寮で開催されるイベントでは寮生が教職員と接する機会を増やす工夫をする。その他にも寮生が抱えている悩み事や困りごとを相談しやすい環境を整える。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			

現状説明	
生活委員の教員と寮生が交流できる場として入寮歓迎会、寮生旅行、スポーツ大会、餅つき大会、退寮パーティなどのイベントに生活委員の教員に参加いただき寮生と交流をしている[1013a]。	

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務局等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			

現状説明	
学生寮は学生寮の管理、運営を主たる業務としており、学生リーダーをはじめ学生部、学生支援課と情報共有を行っており、管理運営組織の設置目的や事務分掌に則った持続的な改善・向上の取り組みに関し、明確な年度重点目標の設定をしている。学生寮の活動については学生寮規程に基づき開催される、寮生活委員会、春日丘寮指導委員会において、指導方針やスケジュール等の決定、次年度の活動方針を含め、報告、意見交換を行っており、生活委員会において、審議、報告された内容については、議事録を作成し保管している[1121c][1121d][1121e]。	

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教員の中から寮生活委員を選び、科別ゼミ等により寮生に学業や生活の指導を行っている。
項目 No. 1121	寮生だけのイベント（寮生旅行、スポーツ大会、餅つき大会）を開催し、そのイベントへ寮生活委員も参加し交流を深めている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学生寮における持続的な改善・向上を目的とした取り組み
今後の改善・向上方策	
日々生活している寮生が寮生活を通して成長を感じられるにはどのようなイベントや取り組みがあると良いか、リーダーや管理人、アンケート等を活用しヒアリングを行い、現代にあった取り組みを考えていく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
寮生が1年間の寮生活を通して成長できること環境を作ることを重点目標とし、それを実現するために寮で開催されるイベントでは寮生が教職員と接する機会を増やし、多くの人と接することができる機会を作る。その他にも寮生が抱えている悩み事や困りごとを相談しやすい環境を整えるとともに設備面でも学生が生活しやすい環境も整える。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	第1回管財部・学生部・学生教育部定例会議議事録	○
1121	b	第2回管財部・学生部・学生教育部定例会議議事録	○
1013	a	2024年度学生寮年間行事予定	○
1121	c	2024.5.9 寮生活委員会 議事録	○
1121	d	2024.10.14 学生寮生活委員会 議事録	○
1121	e	2025.1.20 寮生活委員会 議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 1121 教員の中から寮生活委員を選出し、寮生に対して学業や生活に関する指導を行うなど、教員と職員の協働・連携を図り、寮生の成長につながる環境を整備している。また、寮生活委員会において、指導方針やスケジュール等の決定、次年度の活動方針を含め、報告、意見交換を行うことで、業務内容の点検を行っている [1013a] [1121c] [1121d] [1121e]。
長所・特色
1121 寮生活委員会において指導方針・スケジュールを決定し、方針に基づき教員が寮生活委員として寮生の学業や生活における指導を行い、寮生の成長をはかっていることは評価できる [1121c] [1121d] [1121e]。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	保健管理室
人員構成	専任・嘱託 3人、 アルバイト 1人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	健康診断の受診率向上に向けた取り組みと適切な事後措置の実施
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>・2023 年度以降、就職活動等の理由により指定日時に健康診断を受けることができない卒業・修了年度は、在学生の日程でも受診を許可し、学内での受診機会を増やしている。[1121b] さらに 2025 年度以降は、やむを得ない理由により大学内で受診することができなかつた学生が委託先施設でも受診ができるように業務委託先を変更する。</p> <p>・健康診断実施後は、有所見学生を呼出し、看護師が学校医や学内診療所医師と連携して、再検査、受診勧奨等を行った。呼出しに応じない学生には、電話やメールなどで連絡し個別に対応している。</p>	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 健康診断受診率向上と事後措置の徹底 学内診療所などの関連部署と連携し適切に怪我や体調不良者の対応をする

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明	保健管理室に所属する看護師が窓口担当となり、健康増進センター長はじめ学校医や学内医師と連携して、傷病者の応急処置や健康診断に関連した業務を滞りなくこなしている。[1121c]			

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
<p>怪我や体調不良者の応急処置は、常駐する看護師と学内診療所の医師が連携し対応している。[1121c]</p> <p>定期健康診断実施にあたっては、受診率向上に向けて円滑に受診できるよう、周知や実施方法を適宜見直している。また、2025年度以降は、委託先を変更し、未受診者は委託先施設でも受診が可能となる。健康診断実施後は、有所見者の結果を学校医または学内診療所医師が再確認し、医師の指示に従い看護師が再検査や受診勧奨を行っている。[1121a] [1121b]</p> <p>上記における、事業計画、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針については、中部大学健康増進センター規程に基づき、健康増進センター運営委員会において報告、意見交換を行っており、審議、報告された内容については、議事録を作成し、保管している。[1121d] [1121e]</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学内診療所医師の指示に従い、病気・怪我の対応や健康診断の事後措置を適切に実施している

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	新規委託先と共同で健康診断を円滑に受診できる実施体制を構築する
今後の改善・向上方策	
新規委託先との打合せを重ねて実施方法を決定する。実施後は、受診状況の把握と次年度に向けて改善点を抽出し、より円滑に受診できる体制を整えることで受診率向上につなげていく	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・新規委託先と共同で健康診断を円滑に受診できる実施体制を構築し、受診率向上につなげる ・学内診療所などの関連部署と連携し適切に怪我や体調不良者の対応をする 	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2024年度学生定期健康診断のお知らせ	○
1121	b	2024年度学生健康診断受診率	○

1121	c	2024 年度疾病・怪我による来室利用状況	○
1121	d	2024 年度第 1 回健康増進センター運営委員会議事録	○
1121	e	2024 年度第 2 回健康増進センター運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
<p>1013 定期健康診断の受診率向上のための方策を検討しており、学生の福利厚生向上を図っている。構成員 4 名と産業医による学内診療所と連携して適切な傷病者対応を行っている」と評価できる。</p> <p>1121 事業計画、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針については、中部大学健康増進センター規程に基づき、健康増進センター運営委員会において報告、意見交換を行っており、審議、報告された内容については、議事録を作成し、保管しており、適切に運営がなされている」と評価できる。[1121d] [1121e]</p>
長所・特色
<p>1013・1121 定期健康診断受診機会増大策の検討（大学内で受診することができなかった学生が委託先施設でも受診ができるように業務委託先を変更した点。）健康診断実施後は、有所見学生を呼出し、看護師が学校医や学内診療所医師と連携して、再検査、受診勧奨等を行い。呼出しに応じない学生には、電話やメールなどで連絡し個別に対応している点。[1121a][1121b][1121c]</p>
留意点
<p>特になし</p>

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	健康増進センター (睡眠相談室)
人員構成	専任・嘱託 2 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	睡眠問題改善のための活動の質の向上
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
必要とされている方が睡眠相談を受けられるよう、睡眠相談室の周知方法の検討を行った。周知方法としては、新入生オリエンテーションで睡眠相談室の紹介が記載されたリーフレットを配布、睡眠講演会の開催、新たに運用が開始されたポータルサイトに睡眠相談の内容を掲載した [1121a] [1121b] [1121c]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
睡眠の悩みをもつ学生・教職員が睡眠相談を受けられるように、睡眠相談室の周知活動や他部署との連携を行う。また、相談者の睡眠問題を明らかにし、適切な対応を検討し実践する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明	睡眠相談担当教員が睡眠相談を行い、予約受付や初回問診、睡眠測定器の設定・解析、睡眠相談利用状況の集計や資料作成等 [1121d] の各種事務作業は健康増進センター事務課職員が担当することで、円滑に睡眠相談が行われ、睡眠相談室を運営できるよう協働している。			

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
睡眠相談室の活動については、中部大学健康増進センター規程に基づき開催される、健康増進センター運営委員会において、事業計画、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針を含め、報告、意見交換を行っており、運営委員会において、審議、報告された内容については、議事録を作成し保管している [1121e] [1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	睡眠測定器の有効活用

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	睡眠相談を必要としている学生・教職員が円滑に睡眠相談を受けられる
今後の改善・向上方策	
睡眠相談室設立時より2名体制で行っていた相談担当教員が、2025年度から1名になる。睡眠相談を必要としている学生・教職員が円滑に睡眠相談を受けられるように、相談・予約方法等を見直す必要がある。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
睡眠の悩みをもつ学生・教職員が円滑に睡眠相談を受けられるような方法を構築する。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	健康増進センターリーフレット	○
1121	b	睡眠講演会プログラム	○
1121	c	健康相談ホームページ https://portal.chubu.ac.jp/student/student-life/health-consultation/	○
1121	d	2024年度健康相談集計	○
1121	e	2024年度第1回健康増進センター運営委員会議事録	○
1121	f	2024年度第2回健康増進センター運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

- ：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
- △：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013, 1121 教員と職員の役割を明確にし、より円滑な運営ができるように協働している。[1121d]
長所・特色
1013, 1121 運営委員会では具体的な件数や事案に基づく報告や検討がされている点が評価できる。[1121e][1121f]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	振興基金課
人員構成	専任・嘱託 2人、 派遣・契約事務補助員 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	卒業生の交流会を開催する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学には卒業時の情報しかない中、前部署での記憶を頼り、企業訪問や電話連絡を行い、外部委員の協力も得て当初の目標人数の 100 名 (大学関係者合わせて) を超えて開催することができた[1121a]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	将来的な寄付者を醸成する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
将来的な寄付者を育てていくための足掛かりとしてビジネス交流会を立ち上げたが、同窓会の活動のようにとらえられていることなど、長期的なビジョンをもって取り組んでいくことのコンセンサスは得られていないことが分かり、改めて根本的な課題が明確となった。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
外部委員と連携した「返礼品付き寄付」の周知も含め募金活動を行う。卒業生との「ビジネス交流会」を開催し、長期的に寄付を集められる組織づくりに取り組む。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	B
------	------	--	------	---

評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。
現状説明	
卒業生とのビジネス交流会では、参加者の企業課題にも対応できるよう、学部長、キャリア部長、研究支援センター長や、関連部署と連携して取り組むことができた。	

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	B
評価の視点	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
重点目標に掲げた、「返礼品付き寄付」システムの立ち上げ、卒業生との「ビジネス交流会」の開催も達成することができた[1121b]。 返礼品付き寄付については周知対象者を拡大すること、卒業生から提供いただき、掲載商品のラインナップを充実させていくことが今後の課題である。 ビジネス交流会は開催の目的等を委員会で確認して立ち上げることができたが、改めて目的が浸透していないことが委員会の中でも明確となり、2回目以降のスケジュールを決めることができなかった。 委員会については、外部委員も交え活発な議論を行い、適切に運営することができた[1121c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	振興基金運営委員会にて外部委員を任命している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	活動方針の理解と活動環境の再整備
今後の改善・向上方策	
目先の寄付金獲得のみではなく、将来の寄付者を育てていくことが重要であり、今まで取り組んでこなかったことを行う上で予算が必要であること、継続して取り組み一定期間を設けて成果を図ることを改めて理解を得ていきたい。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
組織変更等により、業務体制の見直しを行い、外部委員との連携を密にした体制づくりを行う。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.			提出区分
項目 No.	記号	根拠資料の名称	

1121	a	ビジネス交流会参加者名簿	○
1121	B	返礼品突き寄付案内チラシ	○
1121	c	振興基金運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
1013	1121 外部委員も入った振興基金運営委員会を設置し、活動方針を決定するとともに、業務内容の点検が行われている [1121c]。
長所・特色	
1121	外部委員も入った振興基金運営委員会を設置し、幅広い意見を取り入れながら活動方針を決定していることは評価できる [1121c]。
留意点	
特になし。	

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報部広報課
人員構成	専任・嘱託 5 人、 派遣・契約事務補助員 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	学園広報として併設校の生徒募集に繋がる施策に取り組む。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
併設校の一般入試において新たに導入された両校を受験した場合の検定料割引制度について周知を図るため、交通広告にて PR を行った。対象エリアを尾張東部 (春日井、尾張旭、瀬戸、長久手、日進、東郷、みよし、豊田) に設定し、愛知環状鉄道と名鉄瀬戸線の車内へ 7 月から 4 ヶ月連続して広告の掲出を行った [1121a]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
併設校と大学を一体化した広報を行うことで学生・生徒の募集を図る。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
マスクミとの連絡及び交流において、マスクミ懇談会の開催や研究広報にかかるプレスリリースの原稿作成・配信にあたり教員と協働・連携を図っている [1013a]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
------	------	---	------	---

評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。
現状説明	教育研究環境の向上を目的として、2024年度より導入されたネーミングライツ事業について庶務を担当した。実施にあたってはネーミングライツ事業規程に則って事業を推進した[1121b]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	新たな収入事業として、大学の施設へネーミングライツを行った。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	マスコミ等の外部からの依頼における円滑な業務の進行。
今後の改善・向上方策	
依頼内容を明確にするための入力フォームの新設。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
大学を広報する手段として SNS を積極的に活用し、学生募集を図る。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	マスコミ懇談会開催	○
1121	a	交通広告 2024 年度掲出事例	○
1121	b	学校法人中部大学ネーミングライツ事業規程	○
1121	c	学校法人中部大学ネーミングライツ選考委員会議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 マスコミとの連絡及び交流において、マスコミ懇談会の開催や研究広報にかかるプレスリリースの原稿作成・配信にあたり教員と協働・連携を図っていることは評価できる。[1013a] 1121 教育研究環境の向上を目的とした、学校法人中部大学ネーミングライツ事業規程により事業が推進されているとともに、選考委員会議事録が根拠資料として示され、手続きが適正になされていると評価できる。[1121a][1121b][1121c]
長所・特色
1121 新たな収入事業として、大学の施設へのネーミングライツ導入により学園経営に貢献した点。前年度の重点目標である「併設校と大学を一体化した広報を行うことで学生・生徒の募集を図る」また前回の課題「学園広報として併設校の生徒募集に繋がる施策に取り組む」に関して、具体的な施策（検定料割引、交通広告）が実施された点。また、2025年度の目標としてSNS活用が掲げられ多様な露出を企画している点。[1013a][1121a]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報部制作課
人員構成	専任・嘱託 6人、派遣・契約事務補助員 1人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	Web サイトリニューアルに関する委員会は組織したが、管理・運営についての委員会の組織化ができていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学園広報委員会で組織された Web サイトリニューアルに関する委員会は役割を終えて解散となった。年 4 回開催の同委員会で Web サイトのアクセス解析を報告したが、管理・運営についての委員会の組織化はできていない状態である。[1121a]	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	Web サイト、SNS を使った広報、スポーツブランディングによる広報が他大学に比べて弱い。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学公式 Web サイト TOP に「中部大学スポーツニュース」コーナーを新設し、特別強化クラブ、強化クラブを中心に各クラブの試合日程・結果、トピックスを発信する仕組みを作った。また、決勝戦など重要な試合では SNS で応援を求めるメッセージや試合経過を発信した。[1121b] [1121c]	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学生・教職員ポータル公開、スポーツ関連情報の発信強化

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
<p>教職員ポータル「情報提供」ページで大学広報に利用できそうなニュースソースを学内教職員から募り、提供された情報を内容によって広報する媒体を選んで発信している。[1013a]</p> <p>在学生とその父母を主な対象とした広報誌『ウプト』は編集委員に各学部から大学教員1人ずつと学生サポート部署の課長が務め、企画について議論・承認を経た上で発行している。[1013b]</p>				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。</p> <p>(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。</p>			
現状説明				
<p>1121-(1) 事務分掌に規定された課の業務（「出版物等の広報物の制作に関すること」「ホームページ運営に関すること」「ロゴ、大学グッズ等の企画、開発、制作及び管理に関すること」）を滞りなく遂行するため、制作課内で重点目標を設定した上、業務分担表を作成して各課員の担当業務を明確化し、主担当者以外の者、補助となる担当者または統括者が業務をチェックする体制にしている [1121d]。</p> <p>1121-(2) 「学園広報に関する出版物の編集及び発行に関すること」の業務のうち、「学園報」については紙での発行は無く、学内でのホームページ公開・閲覧に留まるため、内規を制定した上で編集委員・通信員は組織しているが会合としての委員会を開催せず、編集委員・通信員による公開前のチェックのみとしている。内容に関しては毎号、学内公開前に起案・決裁を得ている [1121e] [1121f] [1121g]。定期刊行物の「中部大学通信（ウプト）」は内規を制定した上で編集委員を委嘱、原則として発行日または発行日の翌日に編集委員会を開催し、発行号についての反省を行い、次号の企画について検討し、承認を得ている [1121h] [1121i] [1121j]。また、「ウプト」については教職員による編集委員会とは別に学生編集委員会を組織し、学生主体で運営を行い、企画会議の開催、議事録の作成、取材・写真撮影、原稿作成等一連の編集作業に携わっている。学内広報誌の「ANTENNA」については内規を制定しているが、2024年度以降は教職員総会特別号を除いた通常号は休刊したため編集委員会は組織せず、教職員総会特別号は掲載する発言者（理事長・学長）の校正のみで発行している。 [1121k]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学生対象の刊行物である「ウプト」で学生編集委員会を組織し、学生主体で運営している [1121i]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	中部大学ウェブサイトリニューアル専門部会の下に3つの検討部会を置き、2024年5月の学生・教職員ポータルの完成で全ての検討部会が解散となり専門部会も解散した後、ウェブサイトの管理・運営についての委員会の組織化ができていない。
今後の改善・向上方策	
Web サイトと SNS の管理・運営に関して検討する場を早い時期に構築する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	情報発信の頻度や内容に偏りがある
今後の改善・向上方策	
受験生に“刺さる”コンテンツ、特に動画の制作に力を入れる、発信する媒体を選んで効果的な情報発信を模索する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
受験生を意識した SNS の利用、動画を使ったコンテンツによる発信強化

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2024 年度学園広報委員会議事録	○
1121	b	中部大学 Web サイト TOP https://www.chubu.ac.jp/	○
1121	c	中部大学 Web サイト「スポーツニュース」 https://www.chubu.ac.jp/sports/	○
1013	a	教職員ポータル「情報提供フォーム」 ※要認証 https://fportal.chubu.ac.jp/faculty/request-info/	○
1013	b	2024 年度ウプト編集委員	○
1121	d	制作課業務分担	○
1121	e	学校法人中部大学学園報編集委員会内規	○
1121	f	2024 年度学園報編集委員・通信員	○
1121	g	起案文書（制作課）学園報 603 号の発行について	○
1121	h	ウプト編集委員会内規	○
1121	i	2024 年度ウプト編集委員	○
1121	j	ウプト編集委員会議事録	○
1121	k	ANTENNA 編集委員会内規	○
1121	l	2024 年度ウプト学生編集委員	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013, 1121 事務分掌に基づき業務分担表を作成して各課員の業務を明確化し、チェックする体制を整備している。 [1121d] 学内公開前に起案・決裁の手続きが適切に行われ、発行物については内規を制定した上で編集委員を委嘱や編集委員会を開催し、見直しや検討などが行われている。[1121g][1121j]

長所・特色
1121 学内公開前に起案・決裁や編集委員会のチェック体制が整備されている点が評価できる。[1121g][1121j]
留意点
特になし

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報部 渉外課
人員構成	専任・嘱託 3 人、派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1120	中部大学後援会役員会・評議員会の出席率向上
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度: 60 人/203 人 (出席率: 29.6%)、2023 年度: 62 人/209 人 (出席率: 29.7%) だったが、2024 年度の中部大学後援会役員会・評議員会の出席は、75 人/209 人 (出席率: 35.9%) だった。2022 年度及び 2023 年度は 29% 台だったが、2024 年度は 35% 台まで大幅に伸長した[1120a]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1120	中部大学音楽祭の来場者アンケートの回収率の向上
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度: 74 人/508 人 (回収率: 14.6%)、2023 年度: 206 人/550 人 (回収率: 37.5%) だったが、2024 年度の中部大学音楽祭の来場者アンケートは、207 人/601 人 (回収率: 34.4%) だった。2024 年度も昨年、回収率の上昇要因と考えられた筆記具の配布をしたが、2023 年度と比較すると 3.1% 低下した[1120b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
予め年間行事が予定されており、繁忙期と閑散期が明確に区分される。働き方について「メリハリ」のある働きを行う。また業務においてデジタル化を推し進め、残業時間の削減に取り組む。ただデジタル化を推進するにあたり、電子機器やシステム費用も掛かることから予算関係を考慮し、中長期視点で取り組むこととする。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
キャンパスコンサートの運営に際し、学内の（専門家）教員にアドバイザーをお願いしており、運営・企画の段階から携わっていただいている。出演いただく、プロ演奏家の方々とアドバイザーのサポートのお陰で円滑な関係が構築できている。アドバイザーの豊富な人脈により、プロ演奏家の方の選定に際し、事務局の負担は皆無に等しく、残業時間の削減に大きく寄与している。運営に携わるスタッフの良好な関係が来場者の方々にも伝わり、キャンパスコンサートは毎回、好評を博している[1013a]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
キャンパスコンサート運営委員会を学内に立上げ、キャンパスコンサートの企画・運営について事業内容を検証する体制を構築している[1121a]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	地元の財界・官界で「中部大学幸友会」を結成し、学園を支援する強固な体制を形成
項目 No. 1121	中部大学と保護者の方とのコミュニケーション イベントを通じて、構築された距離感の近さ

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	中部大学後援会役員会・評議員会の出席率向上
今後の改善・向上方策	
中部大学後援会役員会・評議員会の出席率について、2024年度は35%台まで伸長したが、まだ30%台半ばに過ぎないので、引き続き、出席率の向上に努めていきたい。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	中部大学音楽祭の来場者アンケートの回収率の向上
今後の改善・向上方策	
中部大学音楽祭の来場者アンケートは、2022年、2023年と上昇傾向にあったが、2024年度は数パーセント低下したため、引き続き、アンケートの回収率の向上に努める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
残業時間の削減に向け、紙ベースで運用していた学外への支払いについて、インターネットバンキングを活用したペーパーレスの方式を提案、企画した。2025年度は、本格導入し、運用体制を構築していきたい。また2025年度も「メリハリ」のある働き方を促進し、効率的な業務となるよう企画、提案をしていきたい。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2024年度中部大学後援会役員会・評議員会議事録	○
1120	b	2024第20回中部大学音楽祭アンケート集計結果	○
1013	a	学校法人中部大学キャンパスコンサート運営委員会規程	○
1121	a	2024第1回学校法人中部大学キャンパスコンサート運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
1013	1121 キャンパスコンサートの運営に際し、専門的な知識を有する教員にアドバイザーを依頼し、運営・企画の段階からサポートを得ることで、円滑な運営を行っている。また、キャンパスコンサート運営委員会を設置し、キャンパスコンサートの企画・運営について事業内容を検証する体制を構築している [1013a] [1121a]。
長所・特色	
1013	1121 キャンパスコンサートの運営に際し、専門的な知識を有する教員にアドバイザーを依頼し、教員と職員との協働・連携が図られていることは特長的といえる。また、運営委員会において、これまでのあゆみをふまえた上で、企画・運営を多角的に検討していることは評価できる [1013a] [1121a]。
留意点	
特になし。	

2025 年度 (対象年度 2022-2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部事務室
人員構成	専任・嘱託 6 人、 派遣・契約事務補助員 10 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	学部内手続きの簡略化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
規程以上に設定された学部内承認手続きを簡略化し、会議を削減する。大学院担当資格審査付議を専攻主任会で一度目を行い、工学研究科資格審査会でもう一度行っていたが、人事手続きに関する申し合わせに基づき、専攻主任会での付議を廃止した。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	大学院担当資格審査の手続き見直し
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学院担当資格審査手順を年度毎に日程を明示し、専攻主任会においてこれを議論・周知した。また、資格審査付議開始を年間で 2 回 (5 月、10 月) とし、工学研究科資格審査会の実施回数を 2023 年度の 11 回から、2024 年度は 4 回に減らした。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
工学部事務室と理工学部事務室の業務を可能な限り合同で行うことで業務全体の効率化を図る。また、共通室と連携し、ガレーンの利用促進に伴う学部内周知・支援を行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
工学部事務室は、工学部の教育研究活動を支援する事務部門であるだけでなく、同事務室の職員がAI 数理データサイエンスセンター、天文台、教育技術部、生産技術開発センターを兼務し広範に教員との協働・連携を行い、組織支援を行っている。2028 年度に向けた教学改革においても工学部改組専門委員会の運営事務局として教員との協働・連携による教学改革推進を行っている[1013a][1013b]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 事務分掌に則り、工学部ならびに工学研究科の円滑な管理運営を行っている。 工学部教授会規程、工学研究科委員会規程に基づき、工学部教授会、工学研究科委員会を設置している。開催日を毎月第3週水曜日と定め、学部内の情報共有および連携を図っている。また学生異動等の必要な事項について、審議している[1121a] [1121b]。併せて、工学部教授会、工学研究科委員会を円滑に運営するため、主任会（2021年度以降はその機能を教授会に統合）、工学研究科専攻主任会を設置している[1121c]。各種会議開催にあたっては、工学部・工学研究科ホームページの教職員専用ページに会議資料を事前に上げることで、会議のペーパーレス化が浸透している[1121d]。また、工学研究科資格審査会を設置し、大学院担当資格審査等について審議している[1121e]。なお、2022年度以前に工学部資格審査会で進んでいた学部受け入れの客員教授・客員研究員の受け入れ可否は、2023年度より客員教授等称号付与規程に基づき、教授会で行うよう変更した[1121f]。教育課程の変更等については、工学部・理工学部教務委員会を設置し、必要に応じて開催、審議している[1121g]。また、2023年度より全学組織である教職課程運営委員会による教職課程自己点検・評価が実施され、学部単位での点検報告書を作成した[1121h]。 さらに、工学部内の各学科・教育科および工学研究科の各専攻においても、教授会、研究科委員会での議事を受け、それぞれ定期的に会議を開催し、情報の周知徹底を図っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	工学部・工学研究科ホームページの教職員専用ページに会議資料を事前に上げることで、会議のペーパーレス化が浸透している[1121d]。
項目 No. 1121	2022 年度以前に工学部資格審査会で進んでいた学部受け入れの客員教授・客員研究員の受け入れ可否は、2023 年度より客員教授等称号付与規程に基づき、教授会で行うよう変更した[1121f]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	共通室の運用見直し

今後の改善・向上方策
大学方針として共通室の運用見直しが指示されたことを受け、業務内容の洗い出しと精選を行う。大部分のキャリア支援機能をキャリア支援課へ移管する。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
工学部事務室と理工学部事務室は2つの組織に分かれているが、実質的には1つの部署として一括して業務にあたる。さらに情報工学科および応用化学科共通室の機能・人員も工学部事務室に統合し、今後の組織体制変更のために試行運用する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	2025 中部大学教学改革実行委員会体制図及び委員名簿	○
1013	b	2024 年度 臨時工学部・理工学部主任会 議事録	○
1121	a	2022-2024 年度工学部教授会議事録	○
1121	b	2022-2024 年度工学研究科委員会議事録	○
1121	c	2022-2024 年度工学研究科専攻主任会議事録	○
1121	d	2022-2024 年度工学部・理工学部教員向け資料 工学部教職員専用ホームページ https://fportal.chubu.ac.jp/faculty-dept/engineering/faculty/	○
1121	e	2022-2024 年度工学研究科資格審査会議事録	○
1121	f	中部大学客員教授等称号付与規程	○
1121	g	2022-2024 年度教務委員会議事録	○
1121	h	令和4 年度中部大学教職課程自己点検評価報告書 工学部・工学研究科	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 工学部の教育研究活動を支援する事務部門であるだけでなく、同事務室の職員が学内の様々な部署の業務を兼務する必要があるため、教員との協働・連携を行いながら適切な組織支援を図っている[1013a][1013b]。 1121 各委員会および会議における議事録の作成について、開催毎に作成して適切に保管されており、会議資料を教職員専用ページに事前に掲載をすることで、ペーパーレス化に向けた取り組みを行いその意識が浸透している[1121d]。前回の課題事項である「学内手続きの簡略化」「大学院担当資格審査の手続き見直し」に関して、学部内承認手続きを簡略化し会議を削減するなどして実現している。
長所・特色
1013 工学部事務室と理工学部事務室の業務を可能な限り合同で行うことで業務全体の効率化を図り、共通室と連携してガレージの利用促進に伴う学部内の周知・支援を行っている点[1013a]。 1121 工学部内の各学科・教育科および工学研究科の各専攻において、教授会、研究科委員会での議事を受け、それぞれ定期的に会議を開催し、情報の周知徹底を図っている[1121a][1121b]。また、会議資料のペーパーレス化や会議

体の統合および変更など、改善を行うことで業務にかかる時間の短縮や効率化に取り組んでいることは評価できる [1121d]。

留意点

特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	現代教育学部事務室
人員構成	専任・嘱託 3人、 派遣・契約事務補助員 1人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	学部棟内の施設設備 (視聴覚設備等) の更新。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
今年度は多目的室の視聴覚設備を更新 および 印刷機の購入、机・椅子キャスター交換 (7119 多目的実習室、703A 演習室～703D 演習室) を実施した[1121a]。また、次年度の多目的実習室・器楽演奏室の更新の予算を確保した [1121b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
昨年度実施できなかった学部棟内の施設設備 (視聴覚設備等) の更新。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明	教授会・研究科委員会・主任会・拡大企画委員会・大学院 WG・幼児教育学科実習指導委員会・入試選抜委員会等の会議に職員も参加[1121d][1121e][1121f][1121g][1121h]し、学部・学科の状況や教員の取り組みや考えなどを理解することに努めている。また教員と連携して資格・免許科目の履修漏れチェックを行っている。			

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 現代教育学部事務室は、学校法人中部大学管理運営規則の事務分掌に定められた業務を適正に遂行している[1121c]。 1121 委員会活動について、学部・研究科として開催する教授会・研究科委員会・主任会・拡大企画委員会・大学院WG等の各種委員会については、会議開催、議事録作成等を適切に行っている[1121d][1121e][1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教員と連携した資格・免許科目の履修漏れ、留年防止対策（個人成績表・時間割の依頼）[1121i]。
項目 No. 1121	教職課程、保育士養成施設に関する庶務。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学部棟内の施設設備（視聴覚設備等）の更新。
今後の改善・向上方策	
教員からも聞き取りを行いながら学部施設・設備の調査を行い、今年度対応できなかった施設・設備を含め、学部長等と連携しながら施設設備の更新を行っていく。学部棟の窓ガラス等も汚れが目立ってきており、清掃の予算の確保、手配等を行っていく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
昨年度実施できなかった学部棟内の施設設備（視聴覚設備等）の更新。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.	根拠資料の名称		提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	物件調達依頼書（多目的室プロジェクター更新）等	○
1121	b	2025(令和7年度)中期予算計画調査票（回答）	○
1121	c	事務分掌	○
1121	d	2024年度 現代教育学部教授会議事録	○
1121	e	2024年度 教育学研究科委員会議事録	○

1121	f	2024 年度 主任会議事メモ・拡大企画委員会議事メモ、大学院WG 議事メモ	○
1121	g	2024 年度 現代教育学部入学者選抜委員会議事録	△
1121	h	2024 年度 幼児教育学科実習指導委員会議事録	△
1121	i	成績等提供依頼文書	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1121 学部の特色のある教育実施のため設備更新を行っている。[1121a][1121b]
長所・特色
1013, 1121 事務分掌と規程に則り、各種委員会が適切に開催されている。また、議事録作成に関する手続きも適切に行なわれている。[1121c][1121d][1121e]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2022-2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	理工学部事務室
人員構成	専任・嘱託 1人、派遣・契約事務補助員 6人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	Garoon を利用した各種事務手続きの効率化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2024 年度より Garoon を利用した電子申請が本格的に稼働したことを受け、部内での使用を推奨し、ワークフローによる起案決裁、スケジュールやスペース機能を使った情報共有など積極的に行うことで、業務の効率化につながった。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
引き続き、工学部事務室と理工学部事務室の業務を可能な限り合同で行うことで、業務全体の効率化を図る。また、共通室と連携し、Garoon の利用促進に伴う学部内周知・支援を行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明	理工学部事務室は、理工学部の教育研究活動を支援する事務部門であるだけでなく、同事務室の職員が、工学部事務室、AI 数理データサイエンスセンター、天文台、教育技術部、生産技術開発センターを兼務し、広範に教員との協働・連携を行い、組織支援を行っている。2028 年度に向けた教学改革においても、工学部改組専門委員会の運			

営事務局として教員との協働・連携による教学改革推進を行っており、理工学部における審議事項もここで検討を行っている[1013a][1013b]。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
事務分掌に則り、理工学部の円滑な管理運営を行っている。また、理工学部教授会規程に基づき、理工学部教授会を設置し、開催日を毎月第3週水曜日と定め、学部内の情報共有および連携を図るとともに、学生異動等の学部の承認が必要な事項について審議している [1121a]。主任会は必要な議事があった時のみ召集し、その機能を教授会に統合することで、定例会議の削減に努めている。各種会議開催にあたっては、学部の教職員専用ページに会議資料を事前に上げることで、会議のペーパーレス化が浸透している [1121b]。また、教育課程の変更等については、工学部・理工学部教務委員会を設置し、必要に応じて開催、審議している[1121c]。前述の各種会議については、理工系教育圏として、全て工学部と合同開催をしており、両学部で担当回を決め、会議開催に係る事務作業を分担することで、より精度の高い会議運営を行うと共に、業務全体の効率化が行われている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	理工系教育圏として各種会議を2学部で合同開催している。
項目 No. 1121	会議のペーパーレス化が浸透している[1121b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	共通室の運用見直し
今後の改善・向上方策	
大学方針として共通室の運用見直しが指示されたことを受け、業務内容の洗い出しと精選を行う。大部分のキャリア支援機能をキャリア支援課へ移管する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
工学部事務局と理工学部事務局は2つの組織に分かれているが、実質的には1つの部署として一括して業務にあたる。さらに情報工学科および応用化学科共通室の機能・人員も工学部事務局に統合し、今後の組織体制変更のために試行運用する。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	2025 中部大学教学改革実行委員会体制図及び委員名簿	○
1013	b	2024 年度 臨時工学部・理工学部主任会 議事録	○
1121	a	2022-2024 年度理工学部教授会議事録	○
1121	b	2022-2024 年度工学部・理工学部教員向け資料 工学部教職員専用ホームページ https://fportal.chubu.ac.jp/faculty-dept/engineering/faculty/	○
1121	c	2022-2024 年度教務委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 2028 年度に向けた教学改革において、工学部改組専門委員会の運営事務局として教員との協働・連携による教学改革推進を行っている。[1013a]
1121 理工系教育圏として、会議を工学部との合同開催するとともに、主任会の機能を教授会へ統合することによる会議の削減等、業務の効率化が図られている。[1121a]
長所・特色
1121 理工系教育圏として、各種会議を工学部と合同開催することで、組織としての機能を低下させることなく業務の効率化が図られていることは評価できる。[1121a]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生教育部教務支援課
人員構成	専任・嘱託 12 人 (兼務 2 名含む)、派遣・契約事務補助員 4 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	シラバスの精緻化に向けた検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2023 年度に引き続き、2024 年度全学的課題として「DP・CP との整合性を高めるシラバスの精緻化-step2 学生と教員へのシラバスの浸透」が定められ、内部質保証推進委員会のもと全学的観点によるシラバス質向上WGが設置され、シラバスの精緻化に向け検討を進めている[1121a]。関連し、教職員および学生向けのポータルサイトにおいてシラバスの認知度向上並びに整備充実を目的とし情報発信を行った[1121b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	学長方針である「科目精選」の継続検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2025 年度教育課程については、106 科目の廃止が決まっている。2028 年度からの大学教育改革実行を見据え、2026・2027 年度の教育課程変更については、原則保留 (指定規則等への対応は例外措置) とする学長方針が示されたことから、科目精選については大学教育改革に連動した上で継続検討する。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	大学設置基準改正に伴う対応
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
主要授業科目の選定については、2028 年度からの大学教育改革に連動した上で継続検討する。但し、経営改善TFからの指示を受け、2025 年度 6 月中旬を目処に学部改組の骨子を固めることが求められている状況にあるため、教学改革実行委員会を中心に検討を進める。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
持続的な大学運営に向けた教務運営の整備および充実。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
(2) 教務委員会の運営をはじめ教務上の管理運営においては、適宜教務部⇔教務支援課で情報共有を密にはかり、協働・連携体制を常に意識し実行している。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121(1) 学生教育部教務支援課では、本学における学生支援の方針に基づき、事務分掌の定めのもと教務事務全般における教育支援を担っている。加えて、自発的な学習の「場」として学習支援室の管理運営、修得単位の少ない学生への対応及び大学院における各種支援制度の運用など、多様な学生に対する修学支援を行っている[1121c]。2024年度においては、オリエンテーションの実施方法について、従来の「対面形式」に加え、希望する学科に対しては「オンライン形式」（ライブ配信型・オンデマンド型・ハイブリッド型いずれも可）での開催を選択肢として増やすなど時世を踏まえた運用を導入した[1121d]。関連して全学的なデジタル化推進を踏まえ、休講・補講申請や学外活動届についてガルーンの「ワークフロー申請」の導入を開始した[1121e]。また、全学的な遠隔授業推進の方針を受け、「授業におけるICT活用指針」について一部基準を見直した[1121f]。 1121(2) 教育・修学支援における各種制度の確立や改正の是非、および実施内容の適否については、教務委員会にて適切に審議・検証している[1121g]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	「授業におけるICT活用指針」について一部基準を見直した[1121f]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	大学教育改革を踏まえた教務事項の検討

今後の改善・向上方策	
科目精選を筆頭に、主要授業科目の選定、クラス編成基準等、2028 年度からを予定している大学教育改革に向けて検討を進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	シラバスの精緻化に向けた検討
今後の改善・向上方策	
2023 年度からの継続課題である内部質保証推進委員会にて設定された全学的課題への対応として、シラバスの精緻化に向けた検討を進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学生総合情報システムの更新
今後の改善・向上方策	
情報統括部を中心に検討が進められている学生総合情報システム更新について、2028 年度からの本格稼働を目指し、システム移行に向けた対応を計画的に進める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
2028 年度からの大学教育改革を踏まえた教務事項の検討と整理

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	全学的観点によるシラバス質向上 WG 設置について（内部質保証推進委員会資料）	○
1121	b	シラバス関連周知資料(教職員および学生ポータル掲載)	○
1121	c	学生支援に関する方針	○
1121	d	オリエンテーションの実施方法のあり方について	○
1121	e	デジタル化推進による各種申請書類等のガルーン活用について	○
1121	f	授業における ICT 活用指針（2025. 4. 1）	○
1121	g	2024 年度教務委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 1121 教務部および教務支援課において適宜情報共有を行うことで、教員と職員の協同・連携を図ることができており、組織として適切に機能しているものと言える。新入生学科オリエンテーションの実施方法の選択肢を増やしたこと、休講・補講申請および学外活動届のワークフロー申請化を取り入れたことなど、持続的な業務内容の点検および改善に向けた取り組みを行っている[1121d][1121e]。また、教育・就学支援における各種制度の確立や改正およびその実施内容について、教務委員会において諮ることで委員会活動を適切に行っている[1121g]。

長所・特色
1013 教務委員会の運営をはじめ教務上の管理運営について、教務部・教務支援課で情報共有を密に図りながら、協働・連携体制を常に意識して実行することで、組織として取り組むことができている点。 1121 ワークフロー申請化について、申請者の利便性の向上や決裁までの時間短縮、ペーパーレス化を実現し、様々な視点から業務の効率化を図ることで、全学的なデジタル化推進の効果が期待される[1121e]。自発的な学習の「場」として学習支援室の管理運営、修得単位の少ない学生への対応及び大学院における各種支援制度の運用など、多様な学生に対する修学支援を行っていることは評価できる[1121c]。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	教職課程センター事務課
人員構成	専任・嘱託 5人、 派遣・契約事務補助員 2人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	教職課程自己点検・評価の適正な実施
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教職課程自己点検・評価を適正に実施するため、非公表年度である 2024 年度についても、教職課程運営委員会及び教職課程センター運営会議の議題として取り扱い、新たに策定した実施方針に基づき、各学科・研究科に報告書作成を依頼し、これを受領した[1121a] [1121b] [1121c] [1121d]。併せて、読み合わせ会 (勉強会) を開催し、好事例等を共有することで、自己点検・評価の質向上に努めた。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
無料教職オンライン講座や学習スペース等、支援事業に関する周知を強化し、利用を推進することで教員輩出数の増加を目指す。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
学長直轄組織である教職課程センターの事務部門として、同センター運営会議の庶務を担当するとともに、センター長 (副学長)、副センター長 (教務部長・現代教育学部長)、学生教育部長を起案承認者に位置付け、情報共有や意				

見交換を行いながら、教職協働で組織的にセンターを運営している[1121b]。
副学部長及び教職課程設置学科の代表教員を委員とする、教職課程運営委員会の運営・庶務に携わり、委員及び学科教員と連携を取りながら、教職課程自己点検・評価や教育実習等の適切な実施に努めている[1121a]。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
<p>関係規程及び事務分掌に則り、全学的な教職課程運営組織である、教職課程運営委員会（全1回）の開催手続及び議事録作成を適切に行うとともに、教職課程センター運営会議（全4回）及び幼児教育学科実習指導委員会（全11回）に委員または庶務として携わることで、業務内容が適正であることを確認している[1121a] [1121b] [1121e] [1121f] [1121g]。</p> <p>質の高い教職課程を維持するため、教職課程設置学科と協働し、「教員養成の状況」を大学ホームページで情報公表するとともに、教職課程運営委員会及び教職課程センター運営会議で教職課程自己点検・評価の改善及び質向上に向けた課題について協議し、継続的に見直しを図っている[1121h]。</p> <p>教員輩出数の増加を重点目標に設定し、学習支援企画「みんなで学ぼう会」の開催、学習スペース及び面談室の設置、教職課程支援員の配置、教員採用試験対策講座及び無料教職オンライン講座の開講、ガイドブックを用いた履修指導、教職課程センターホームページコンテンツの充実、Web ツールを用いた ICT の利用推進等、学生の修学実態を踏まえた積極的な支援を行っている。また、これらの支援内容については、メールやガイダンス、教職課程運営委員会等で周知を図り、学生の利用促進に努めている[1121i] [1121j] [1121k] [1121l] [1121m] [1121n]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	「みんなで学ぼう会」 学年・学科を問わず参加可能な学習支援企画。 教職課程の学友形成と教職キャリア教育の機会創出が目的。 教員採用試験や学校現場の現状等に関するテーマを設定し、陪席する教職員の FD・SD 活動も兼ねる。
項目 No. 1121	「教職課程支援員」 校長職経験者が、教育実習や教員採用試験の面談指導を行う。
項目 No. 1121	「無料教職オンライン講座」 学年・学科を問わず視聴可能。 時間・受講費用に制限されない、開かれた学習機会を提供。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教職課程自己点検・評価の適切な実施

今後の改善・向上方策
作成者（学科・研究科）によって、自己点検・評価報告書の水準が一定でなく、「課題なし」や「長所なし」の記載が散見される。 2025年度の報告書公表に向けて、全2回の読み合わせ会（勉強会）を開催し、標準化を図る。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
教職協働で教職課程自己点検・評価を適切に実施し、報告書を作成・公表する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2024年度教職課程運営委員会議事録.pdf	○
1121	b	2024年度教職課程センター運営会議議事メモ.pdf	○
1121	c	教職課程自己点検・評価 実施方針等について.pdf	○
1121	d	令和5年度教職課程自己点検・評価報告書.pdf	○
1121	e	中部大学教職課程規程.pdf	○
1121	f	中部大学教職課程センター規程.pdf	○
1121	g	2024年度幼児教育学科実習指導委員会議事録.pdf	△
1121	h	教員養成の状況（情報公表）Web サイト.pdf https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/teacher-training/	○
1121	i	「みんなで学ぼう会」チラシ.pdf	○
1121	j	教職課程センター案内チラシ.pdf	○
1121	k	教員採用試験対策講座チラシ.pdf	○
1121	l	無料教職オンライン講座チラシ.pdf	○
1121	m	2024年度入学生用教職課程ガイドブック.pdf	○
1121	n	教職課程センター（在学生専用）Web サイト.pdf https://portal.chubu.ac.jp/student/career/teacher-training-current-students/	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013, 1121 教職課程運営委員会及び教職課程センター運営会議で自己点検・評価の改善及び質向上に向けた課題について協議し、継続的に見直しを行うとともに、大学のホームページで情報公表を行っている。 [1121c][1121d][1121h]
長所・特色
1121 教職課程について学ぶ勉強会の実施により、好事例等を共有することができ、自己点検・評価の質向上に努めている点が評価できる。[1121i]

留意点

特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生支援課
人員構成	専任・嘱託 12 人、 派遣・契約事務補助員 2 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>新入生オリエンテーションの時などの証明書自動発行機の混雑解消と学生の利便性向上のため、名鉄バス中部大学線の定期乗車券のデジタル化を行った。その結果、2025 年度の新入生オリエンテーションでは証明書自動発行機に並ぶ列が例年と比べて 1/5 以下になり混雑が完全に解消された。[1121a]</p>	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ関係業務の適正化。(予算、特技推薦枠など) ・クラブ関係業務の体育・文化センター事務課への移管。 ・無人コンビニの導入。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明	常に教学担当副学長から学生部のラインと大学事務局長から学生支援課のラインの両方が入るよう、決裁ルートを生学生支援課→学生教育部→学生部→大学事務局長→教学担当副学長としている。[1013a]			

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
学生生活の支援、学生の福利厚生等の充実発展を目的に「学生委員会」を始め各種委員会を設置し、企画立案、業務改善等を検討・協議している。業務内容の点検については各種委員会で実施報告を行い、参加者数の増減やアンケート結果から適宜、見直しを行っている。また管理運営組織の設置目的や事務分掌に則った持続的な改善・向上の取り組みに関しては年度重点目標を「安心・安全な学生生活を送るためのキャンパスづくり」として行っている。なお各種委員会を開催するにあたっては開催起案の決裁を経て開催し、議事録作成に関する手続も概ね適切に行っている[1121b] [1121c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学生の生活支援を目的に学生委員会を中心として奨学生選考委員会、寮生活委員会、春日丘寮指導委員会、ボランティア・NPO センター運営委員会等を設置

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	課内業務における持続的な改善・向上を目的とした具体的な目標の設定とそれに向けた取り組み
今後の改善・向上方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・放置自転車・バイクの処分方法の変更。産業廃棄物として処分している自転車・バイクを有価物として処分することにより処分費用が低減される。 ・新入生オリエンテーション+日本学生支援機構奨学金手続きのときに掛けているレクリエーション保険の見直し。年間約 30 万円かかっているが 10 年間一度も使用していない保険の一部を学内の治療費給付制度でまかなうことでトータルで保険にかかる費用を低減させる。 	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・新行事企画（学生の教育及び学生の居場所につながる内容） ・キャンパスプラザ掲示板の見直しとエリアの再活用 	

5. 根拠資料

根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出区分
項目 No. 記号		

1121	a	名鉄バス中部大学線定期乗車券のデジタル化について。	○
1013	a	起案文書一例	○
1121	b	第1回学生委員会開催起案	○
1121	c	第1回学生委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 組織の管理運営において、教員系および事務系双方のラインを意識した決裁ルートに基づき意思決定を行っており、教員と職員の協働・連携を適切に図っている [1013a]。 1121 学生委員会を始め各種委員会を設置し、企画立案、業務改善等を検討・協議し、業務内容の点検についても各種委員会での実施報告により行い、適宜、見直しを行っている。各種委員会の開催起案や議事録作成も行っている。 [1121b] [1121c]。
長所・特色
1121 学生生活支援を目的とした各種事業において委員会を設置し、業務内容を点検の上、適切に運営していることは評価できる [1121b] [1121c]。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生サポートセンター事務課
人員構成	専任・嘱託 4人、派遣・契約事務補助員 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	合理的配慮内容の決定プロセスの再検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
上位機関 (委員会) の設置の必要性について、進言はしたが実現には至らなかった。合理的配慮および相談窓口を紹介するためのリーフレットを作成した。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	他部署との連携強化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
FD・SD 研修会に講師の紹介から全面的に協力をし、『合理的配慮の基本的な考え方と授業等における変更・調整の実際』に共催した。教員の悩みに対してダイレクトに伝える工夫をし実施した。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
合理的配慮の理解と周知のための活動を実践していく。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2) 大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			

現状説明	
<p>・学生サポートセンター事務課ミーティングを開催し、センター長他4名の教員スタッフとの情報交換および情報共有をした。(1013a) 口頭ではあるが、日常的に情報共有を実施している。</p> <p>・配慮申請の関係者会議の開催を通し、学科所属の教員との情報共有や合理的配慮の理解、協力が得られるよう協議している。(1013b)</p> <p>・FD・SD研修会に講師の紹介から全面的に協力をし、『合理的配慮の基本的な考え方と授業等における変更・調整の実際』に共催した。教員の悩みに対してダイレクトに伝える工夫し実施した。(1013c)</p> <p>さらに、SDカフェに開催にも全面的に協力をし、教員の不安や不満を共有し、アイデアを交換する有意義な場となった。</p>	

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。</p> <p>(2)委員会活動の検証</p> <p>・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。</p>			
現状説明				
<p>・内部監査により夢・チャレンジ「ちゅとラボ」の規程の不備が指摘された。2025年度秋までに規程を整える。</p> <p>・不言実行館運営委員会（1回）、夢・チャレンジ「ちゅとラボ」運営委員会（3回）を開催した。(1121a)</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	障害学生支援、ちゅとラボ、インターンシップ（学生サポーター）など、さまざまな場面で学生に関わり、学生の成長に直接的に貢献できる。
項目 No. 1121	多角的な学生支援の実践により、休退学の軽減に貢献できる。
項目 No. 1121	教員との連携ができる。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	障害学生支援業務の継承
今後の改善・向上方策	
合理的配慮制度の安定的な運営継続および障害学生支援に必要な知識とスキルの継承について、専門的スキルを要する部署の人事配置について組織の課題として訴えつつ、事例検討や研修会等への参加機会を提供するなどの方法で、課員のスキルアップを目指す。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	教員との連携強化
今後の改善・向上方策	
合理的配慮の提供を中心とした学生支援の具体的な方法について、教員との連携を強化し、学生支援の充実を図る。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
障害学生支援に必要な知識とスキルの継承について具体的な方策を検討し、実行に向けて行動する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	学生サポートセンター事務課ミーティング議事録	○
1013	b	修学上の配慮申請についての関係者会議 議事録	△
1013	c	第3回 FD・SD 研修会案内チラシ	○
1121	a	不言実行館運営委員会、夢・チャレンジ「ちゅとラボ」運営委員会 議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 学生サポートセンター事務課ミーティングを開催し、センター長はじめ教員スタッフと情報共有をしており、配慮申請の関係者会議を通じた学科教員との情報共有、FD・SD 研修会、SD カフェへの大学企画部との連携により教員との連携による合理的配慮の理解の向上が図られていることは評価できる。[1013a][1013b][1013c][1121a] 1121 学生サポートセンター事務課ミーティングメモ、不言実行館運営委員会、夢・チャレンジ「ちゅとラボ」運営委員会議事録を作成・保管している。[1013a][1013b] [1121a]
長所・特色
合理的配慮および相談窓口を紹介するためのリーフレットを作成した点。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	キャリア支援課
人員構成	専任・嘱託 10 人、 派遣・契約事務補助員 5 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	就職支援の取り組みについて、正しく着実に学生へ周知すること。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
企業の採用活動の早期化や多種多様な就職支援サービスの出現等、就職環境が年々変化する中、大学ならではのキャリア支援について学生に周知するために就職ガイダンスでの説明に加え、でき得限りの周知方法を実践している。具体的には、学生に情報が広く行き渡るよう、中部大学進路支援システム C-NET メール、同お知らせの活用、Tora-Net メール、同お知らせ、中部大学アプリ、学内への看板やポスターの掲示等、複数の情報伝達手段を併用している [1121a] [1121b] [1121c] [1121d]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	キャリア支援の質の維持・向上および課員のスキルアップを目指した勉強会の実施。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
キャリア支援の場においても多様性についての基本的な知識およびその実践的活用が必要となる場面が増えているため、2024 年度中に 2 回、学内外から講師を招き (学内・学外各 1 回) キャリア支援課員を対象とした勉強会を開催した。また、キャリア支援の質の保証の面では課員が国家資格キャリアコンサルタントの資格取得に積極的に取り組んでおり、現在、派遣職員を含め 5 名が同資格を保有し、知識と経験を活用して学生のキャリア支援にあたっている [1121e] [1121f]。	

II. 自己点検・評価 0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
採用選考の早期化、多種多様な就職支援サービスの広がり等の影響により、就職活動における学生の動きの二極化、活動量の変化等が見られることから、学生のニーズ把握のための仕組みの構築やニーズを踏まえた就職支援行事の企画、実施を進める。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
就職支援行事の実施や正課科目インターンシップの運営、新規あるいは緊急性の高い案件等については、キャリア委員会、理系・文系・資格系の各分科会、インターンシップ推進委員会にて審議および報告を行っている。また、学生の就職支援に関して学部教員の協力が必要な場合は、学部長会・研究科長会の議題として取り扱われた後、各学部教授会において情報の周知が図られ、教員から学生に周知する仕組みを取っている[1121g]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 就職ガイダンスを始めとした就職支援行事の実施、正課科目インターンシップの運営、新規あるいは緊急性の高い案件等については、キャリア委員会、理系・文系・資格系の各分科会、インターンシップ推進委員会にて審議し、実行、結果の報告、事後の検証を行っている。また、各会議の議事録は、作成後、会議にて構成員による確認を経て記載内容を確定し、保存している [1121h] [1121i] [1121j] [1121k]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	キャリア委員会および文系・理系・資格系各分科会にて取り扱われた事項の実行および各学部の学生の就職支援については、キャリア部、キャリア支援課、キャリア委員、学部学科の教員、学部事務室が必要に応じて連携し、教職協働により学生のキャリア支援にあたっている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	課内業務の属人化の回避
今後の改善・向上方策	
課内にてジョブローテーションを活発化させる。また、各業務の対応が主担当に偏りがちなため、副担当を形式的に置くのではなく、実効化させる。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な学生の支援のための正しい知識、情報の習得 ・各学科の資格取得支援への補助の拡充

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2024 年度就職ガイダンス企画書 (2027 卒)	○
1121	b	中部大学進路支援システム C-NET サンプル画像	○
1121	c	Tora-Net メールサンプル画像	○
1121	d	中部大学アプリサンプル画像	○
1121	e	2024 年度第 2 回キャリア支援課勉強会資料 (新卒応援ハローワーク)	△
1121	f	2024 年度キャリア支援課スタッフ配置表	○
1121	g	2025 年度卒生に向けた就職活動進捗状況アンケートの実施について (20240417 学部長会・研究科長会資料)	○
1121	h	2024 年度キャリア委員会議事録	●
1121	i	2024 年度理系分科会議事録	●
1121	j	2024 年度文系分科会議事録	●
1121	k	2024 年度資格系分科会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013, 1121 教職協働による学生のキャリア支援体制を整備し、議事録において具体的な検討内容が記載されているなど改善・向上の取り組みが適切に行われている。[1121h][1121i][1121j][1121k]
長所・特色
1121 国家資格キャリアコンサルタントの資格取得に積極的に取り組み、知識と経験を活用して学生支援の質の向上を目指している点が評価できる。[1121f] 学生に情報が広く行き渡るよう、複数の情報伝達手段を併用している。[1121b]
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	情報統括部
人員構成	専任・嘱託 13 人、 派遣・契約事務補助員 3 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	情報セキュリティ委員会にてセキュリティ啓発活動を継続的に取り組む。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1121 2022～2023 年度は、セキュリティ講師を招いた講演会を実施してきたが、2024 年度は標的型攻撃メール訓練を実施した。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	情報系部署の統合後の体制整備。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1121 2023 年度は 2 部署統合および 1 部署兼務の状況で完全統合とはならなかったが、2024 年度は 3 部署の完全統合となった。属人化解消と事業継続計画実現のために複数スタッフで業務を担当するよう運用体制整備・役割分担を進めている。スタッフの高齢化については、今後も定期的な人員確保が必要である。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
統合された情報部門の組織の在り方と役割を明確にし、業務役割分担を見直し、運用体制を整備する。 部署統合前から運用しているそれぞれの情報システムについての知識共有、相互理解に努め、ICT の管理、運用、利活用の支援を行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
1013 総合情報センターでは、教員4名（センター長・副センター長・センター長補佐等）と事務職員16名が協働し、教育研究支援などの業務を適切に遂行している。教員が方針と専門的要件を示し、事務職員が制度・技術面を担うことで互いの強みを補完し合う体制となっている。情報共有にはグループウェア「ガルーン」の共有スペースを用い、意思決定を迅速化している。「総合情報センター運営委員会」で進捗や課題を共有し、決定事項を審議している[1013a]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 「中部大学総合情報センター規程」に則り、中部大学の教育及び研究の推進のための情報関連環境の整備を行っている[1121a]。 1121 総合情報センターの運営に当たっては、「中部大学総合情報センター規程」第5条に基づき、総合情報センター運営委員会を設置し、「中部大学総合情報センター運営委員会規程」に則り、方針や重点目標等の検討、審議を行い、その事務（議事録の作成、決裁処理等）を担当している[1121a][1121b][1121c]。 1121 情報セキュリティ委員会の開催に当たっては、「情報セキュリティ委員会規程」に則り開催し、その事務（議事録の作成、決裁手続き等）を担当している[1121d][1121e]。 1121 ICT運営委員会の開催に当たっては、「ICT運営委員会規程」に則り開催し、その事務（議事録の作成、決裁手続き等）を担当している[1121f][1121g]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学内で委員会が数多く設置されているため他の委員会と重なることが多いため、情報セキュリティ委員会とICT運営委員会は、委員が参加しやすいよう同一日に開催している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	情報系部署統合後の体制整備。
今後の改善・向上方策	
1121 2024年度より部署統合が実現したが、運用体制、役割分担、組織の在り方については、今後も継続して検討・整備していく必要がある。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	情報セキュリティ規程、管理体制の整備。

今後の改善・向上方策
1121 セキュリティインシデントを防ぐために、情報セキュリティ規程、管理体制、格付け基準等を整備する必要があるが、整備中の学園の情報セキュリティ管理体制の整備を待ってから、大学の管理体制の強化を継続する予定である。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
統合された情報部門の組織の在り方と役割を明確にし、業務役割分担を見直し、運用体制を整備する。部署統合前から運用しているそれぞれの情報システムについての知識共有、相互理解に努め、ICTの管理、運用、利活用の支援を行う。類似システムや類似サービスの統合を検討する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	総合情報センター運営委員会議事録・活動報告	○
1121	a	総合情報センター規程	○
1121	b	総合情報センター運営委員会規程	○
1121	c	総合情報センター運営委員会議事録・活動報告	○
1121	d	情報セキュリティ委員会規程	○
1121	e	情報セキュリティ委員会議事録・活動報告	○
1121	f	ICT 運営委員会規程	○
1121	g	ICT 運営委員会議事録・活動報告	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 1121 教員および事務職員が協働し、教育及び研究の推進のための情報関連環境の整備を行っている。委員会の運営にあたっては、総合情報センター運営委員会規程などの諸規程に則り、方針や重点目標を設定し、議事録の作成や決裁手続等を行っている。[1013a] [1121a][1121b][1121c]。
長所・特色
1013 1121 教職協働で教育及び研究の推進のための情報関連環境の整備を行っていること、また委員会の運営にあたっては、諸規程に則り方針や重点目標を設定していることは評価できる。[1013a] [1121a][1121b][1121c]。
留意点
特になし。

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学部・大学院統括課
人員構成	専任・嘱託 9人、 派遣・契約事務補助員 0人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	大学院持続社会創成教育プログラムの充実および登録生数の拡大
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会において、2023 年度持続社会創成教育プログラム修了時アンケート結果や科目担当者の意見を踏まえ、同プログラムの改善点について意見交換を行い、MOOC 等の活用による英語対応について充実化を図り、プログラム修了要件の変更を試みた[1121a]。 また、学部生ならびに大学院合格者に向けて、大学院持続社会創成教育プログラムへの周知や理解を目的としたプログラム説明動画を作成し、大学 Web に掲載した[1121b] [1121c]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	各部署の業務・活動内容の検証機会の設置および施策提案の促進
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部・研究科間の調整および情報共有を目的に学生支援部門だけでなく、必要に応じた各部署を交えた打合せを月 1 回の頻度で開催している[1121d]。また、Garoon のスペースを活用し、各部署における課題の共有を図り、業務改善に繋がる積極的な意見交換の場となっている [1121e] [1121f] [1121g]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会および大学院定員充足率改善検討委員会等の会議の適切な運営、ならびに各委員会で決定した方針に基づく施策の実行による大学院進学者の拡充。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会、大学院定員充足率改善検討委員会・同WGにおいて、委員の中に事務職員が指名されており、それぞれの委員会目的に応じた事項について審議している[1013a]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
<p>学部・大学院統括課では、学部・研究科間の調整および情報共有を目的に学生支援部門だけでなく、必要に応じて各部署を交えた打合せを月1回の頻度で開催している[1121d]。</p> <p>大学院持続社会創成教育プログラムの事務局として、運営委員会の開催や研究発表会の運営を担当している。同委員会において、プログラムの改善や大学院進学率および持続社会創成教育プログラム登録者数拡大について検討した。2021年度より大学院持続社会創成教育プログラム交流会を修士2年生が対象として開催（2023年度より中部大学フェアにて参加）しており、2024年度からは修士1年生からも発表者として参加可能となった。また、当運営委員会ならびに持続社会創成科目担当責任者連絡会において、持続社会創成科目におけるMOOC等の活用について、活発な意見交換を行った結果、MOOC等を利用した英語での授業運営が可能となり、留学生の受け入れ体制が整備されるとともに、日本人学生においても教育効果が期待されることになった[1121a]。</p> <p>大学院定員充足率改善検討委員会および同WGの事務局として、会議資料および議事録の作成を担当している。2024年度は、大学院定員充足率改善検討委員会WGにて、一部の研究科における定員の見直しを行う答申が了承され、大学院定員充足率改善検討委員会にて、同WGからの答申が審議され承認された。また機関別認証評価における提言（該当箇所：大学院の定員管理の徹底について）に対する改善報告書を作成し提出した[1121i] [1121h] [1121j]。</p> <p>なお、各委員会等の開催通知、議事録作成は適切に行っている[1121a] [1121h] [1121i]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会ならびに科目担当責任者連絡会において、積極的な意見交換がなされ、MOOC等の活用など課題改善に向けたプログラム改善が積極的に行われた[1121a]。
項目 No.1121.	大学院定員充足率改善検討委員会において、学部長・研究科長を委員に配置する委員会の下部にWGを設置することで、活発な意見交換および研究科内での調整が可能となり、その結果実現可能な施策の答申に繋がった[1121h] [1121i]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	持続社会創成教育プログラム登録者数拡大

今後の改善・向上方策
大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会において、過去に行った持続社会創成教育プログラム修了時アンケート結果を踏まえ、同プログラムの改善点について意見交換を行い、学生ならびに研究科のニーズに合わせた充実化を図る。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会の適切な運営ならびに委員会で決定した方針に基づく施策の実行によるプログラム登録者数の増加。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	2024 年度 各種委員会名簿	○
1121	a	2024 年度 大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会議事録	○
1121	b	Web ページ_ 持続社会創成教育プログラム-PEPS https://www.chubu.ac.jp/academics/graduate-program/	○
1121	c	Web ページ_ 学部・大学院 https://www.chubu.ac.jp/academics/	○
1121	d	2024 年度 学部・大学院統括課会議 議題	○
1121	e	Garoon_スペース (学部・大学院統括課) 1	○
1121	f	Garoon_スペース (学部・大学院統括課) 2	○
1121	g	Garoon_スペース (学部・大学院統括課) 3	○
1121	h	2024 年度 第 1 回大学院定員充足率改善検討委員会議事録	○
1121	i	2024 年度 第 1 回大学院定員充足率改善検討委員会 WG 議事録	○
1121	j	改善報告書 (中部大学)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会、大学院定員充足率改善検討委員会・同 WG において、それぞれの委員会目的に応じた事項について審議することで、大学運営を円滑かつ効果的に行っている[1013a]。 1121 2024 年度の重点目標に掲げた、大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会および大学院定員充足率改善検討委員会等の会議の適切な運営、ならびに各委員会で決定した方針に基づく施策の実行による大学院進学者の拡充について、運営委員会の開催や研究発表会の運営、会議資料および議事録の作成を行うなど、担当事務局として持続的な改善・向上に取り組んでいる[1121a][1121h][1121i]。

<p>長所・特色</p>
<p>1013 大学院持続社会創成教育プログラム運営委員会、大学院定員充足率改善検討委員会・同WGにおいて、委員の中に事務職員を指名することで、教員と職員の協働・連携を図っている点[1013a]。</p> <p>1121 学部・研究科間の調整および情報共有を目的に、学生支援部門だけではなく必要に応じて各部署を交えた打合せを定期的に行っている。また、Garoonのスペースを活用することで、各部署における課題の共有を図り、業務改善に繋がる積極的な意見交換を行っている点[1121d]。大学院持続社会創成教育プログラム交流会について、修士2年生を対象として開催していたものを2024年度から修士1年生も発表者として参加を可能とすることで、研究を通じた交流・情報交換の機会を増やす取り組みを行った点[1121a]。また、研究科の定員見直しについて、大学院定員充足率改善検討委員会WGにおいて検討を進めた結果を基に、一部の研究科における定員の見直しを図ることとなったことは評価できる[1121h][1121i]。</p>
<p>留意点</p>
<p>特になし。</p>

2025 年度 (対象年度 2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	研究支援課
人員構成	専任・嘱託 18 人、 派遣・契約事務補助員 5 人

基準 10	大学運営・財務 (大学運営)
基準 11	大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	研究不正防止に向けた取組みの更なる強化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学ホームページに掲載する情報の充実、また、毎年研究者に配布している「研究ガイドブック」等の冊子の構成・内容について見直しを図り、競争的研究費等の経費執行部分については、「競争的研究費等の経費執行マニュアル」として、ホームページに掲載することにより利便性を図った[1121a] [1121b]。 研究ガイドブックに掲載する規程等の改正については、引き続き検討することとした。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1121	利益相反に関する規程等の整備
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
利益相反に関するポリシーや規程の整備を行った[1121c] [1121d] [1121e]。また、利益相反自己申告書 (第 1 次) の提出方法について、手書き様式から、Google Form への回答方式に変更し、提出数が増加した[1121f]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
研究公正、公的研究費の適切な執行を推進するため、研究不正防止に向けた取組みを更に強化する。具体的には研究者に新たに求められている研究インテグリティへの理解を深めるための教材提供、大学ホームページの掲載情報の充実、研究者に配付する冊子等の構成・内容の見直しを図る。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	B
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、 <u>教員と職員の協働・連携</u> を図っているか。			
現状説明				
2024年度から新たに研究支援センター及び産官学連携研究センターを設置し、月1回程度、副学長主宰の「産官学連携会議」を開催した。会議は学術研究担当副学長、産官学連携研究センター長、マスコミ経験者である副センター長、産官学連携コーディネータ、URAで構成され、研究情報発信機能のため、情報共有に努めた。また、定期的にコーディネータのミーティングを実施し、外部資金情報の共有を行い、適切な教員への紹介を行った[1013a]。				

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
「学園ビジョン 2021-2025 実行計画 戦略的な研究力の強化」[1121g]に基づき、研究戦略委員会で承認された「2024年度 産学連携目標・計画について」[1121h]を策定し研究支援活動を実施している。また、結果については研究戦略委員会に報告している。				
研究倫理委員会、研究戦略委員会、研究企画運営会議、利益相反委員会、発明考案委員会、輸出管理委員会等について、事務局として開催及び議事録等についての手続きはすべて起案書を作成しており、適切に対応している[1121i][1121j][1121k][1121l][1121m][1121n]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	産官学連携コーディネータが、教員との研究の橋渡しを行い、受託・共同契約の成果が出ている[1013a]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	科研費 WEB 報告書管理システム(Dr. Reports)の導入による科研費業務の効率化及び標準化
今後の改善・向上方策	
運用にあたって生じた課題など、実務担当者から意見を集約し、改善、向上が見込まれる内容については、見直しを行う。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
科研費を始めとした外部資金の件数、金額を増加させる。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	ホームページ — 研究 — https://fportal.chubu.ac.jp/faculty/research/	○
1121	b	「競争的研究費等の経費執行マニュアル」	○
1121	c	利益相反ポリシー	○
1121	d	中部大学利益相反委員会規程	○
1121	e	中部大学利益相反マネジメント実施要領	○
1121	f	2024 年度中部大学利益相反自己申告書（第1次）－Google フォーム	○
1121	g	学園ビジョン 2021-	○
1121	h	2024 年度産学連携目標・計画について	○
1121	I	2024 年度研究倫理委員会活動報告	○
1121	J	2024 年度研究戦略委員会活動報告	○
1121	k	2024 年度研究企画運営会議議事概要	○
1121	l	2024 年度利益相反委員会活動報告	○
1121	m	2024 年度発明考案委員会活動報告	○
1121	n	2024 年度輸出管理委員会活動報告	○
1013	a	コーディネータ活動集計 2024 年度	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1121 各委員会の事務局として開催及び議事録等について、適切に対応している。[1121j][1121k][1121l][1121m][1121n] 不正防止に向けた各種掲載資料の充実や Google Form の活用を行っている。[1121f]
長所・特色
1013 コーディネータと協力し、受託・共同契約の成果につなげている。[1013a]
留意点
特になし。